平成１３年度

自己点検・評価報告書

長崎短期大学

平成１３年度 自己点検・評価報告書

目　次

沿　　革 …… 1
教育理念 …… 3
教職員の状況 …… 5
学生数 …… 6

食物科 …… 7
保育学科 …… 9
英語科 …… １２

専攻科
食物栄養専攻 …… １５
福祉専攻 …… １６

茶道文化 …… １８
学生募集　入試課 …… ２１
学生課 …… ２３
教務課 …… ２５
就職課 …… ４４
国際交流 …… ４９
図書館 …… ５１
保健室 …… ５８
事務局 …… ６６

短 期 大 学 沿 革 史

一　名称及び所在地

名　称　長崎短期大学

所在地　〒 858-0925 長崎県佐世保市椎木町 600 番（電話 0956－47－5566 (代)）

二　沿　革　史

設　置　者	学校法人　九州文化学園
昭和 20.11.30	九州文化学院設立申請（高女卒 2 年課程）
	校　舎　大黒町元海軍工廠工員宿舎
昭和 20.12.15	第 1 回九州文化学院入学式
昭和 21. 4.20	選科併設（洋裁・英文・家政科・高女卒 1 年課程）
昭和 22. 2.28	九州女子専門学校昇格認可（国文科・英文科・経済科）
昭和 22. 5. 5	九州文化学院廃校認可
昭和 23. 1.30	九州女子専門学校付属中学校設立認可
昭和 23. 9.11	矢岳町無番地へ学校移転
昭和 24. 4.10	旧中学校・高等女学校教員無試験検定許可
昭和 24. 8. 3	九州女子専門学校を佐世保専門学校と名称変更申請
昭和 25. 2. 2	改　名　許　可
昭和 25.12.25	九州文化学園高等学校設置認可申請
昭和 26. 3.24	同上設置認可
昭和 26. 4. 1	佐世保専門学校を商科短大へ移行
昭和 40. 9.30	九州文化学園短期大学設置認可申請
昭和 41. 3.18	同上設置認可
昭和 41. 3.22	中学校教諭二級普通免許状（家庭）授与資格取得課程へ認定される
昭和 41. 3.30	栄養士養成施設として指定を受ける
昭和 41. 4. 1	九州文化学園短期大学開設　　初代学長　安部芳雄就任
昭和 41. 4. 1	食物科（定員80名）開設
昭和 41. 4.15	食物科第 1 回入学式
昭和 42. 4. 1	食物科入学定員を 100 名に変更
昭和 43. 3.15	九州文化学園短期大学食物科第 1 回卒業式
昭和 47. 3.30	九州文化学園短期大学幼児教育学科設置認可
昭和 47. 3.31	幼稚園教諭二級普通免許状授与資格取得課程へ認定される
昭和 47. 3.31	保母養成校の指定を受ける
昭和 47. 4. 1	幼児教育学科（定員50名）開設
昭和 47. 4.15	幼児教育学科第 1 回入学式
昭和 49. 3.15	幼児教育学科第 1 回卒業式
昭和 53. 2. 6	第 2 代学長　安部直樹就任
昭和 60. 3.20	短期大学校舎新築竣工（本館、芸術棟、ラウンジ）5,448.67 ㎡
昭和 60. 4. 1	長崎短期大学と名称変更
昭和 60. 4. 1	大学位置変更（佐世保市椎木町 600 番）

昭和 63.12.10	専攻科福祉専攻棟新築竣工　325.01 ㎡
昭和 63.12.22	英語科設置認可
平成 元. 1.11	専攻科福祉専攻設置認可
平成 元. 2.20	英語科棟新築竣工　910.83 ㎡
平成 元. 4. 1	英語科開設（定員80名）
平成 元. 4. 1	専攻科福祉専攻開設（定員20名）
平成 元. 4. 1	食物科入学定員を80名に変更
平成 元. 4. 8	英語科第 1 回及び幼児教育学科専攻科福祉専攻第 1 回入学式
平成 3. 3.15	専攻科福祉専攻第 1 回卒業式
平成 3. 3.26	中学校二種免許状（英語）授与資格取得課程へ認定される
平成 3. 2. 9	白蝶旗（長崎短大旗）制定
平成 3. 3.15	英語科第 1 回卒業式
平成 3. 9.30	期間付（平成 4 年度～平成11年度）入学定員変更認可申請
平成 3.10.11	多目的ホール（体育館）及び教養棟建設着工
平成 3.12.20	期間付入学定員変更認可
平成 4. 2.28	多目的ホール（体育館）1,513.78㎡及び渡廊下 138.411㎡新築竣工
平成 4. 3.31	教養棟新築竣工 440.99㎡　ラウンジ増設竣工 149.88㎡
平成 4. 4. 1	食物科定員 130 名及び英語科 150 名へ　入学定員変更
平成 6.12.20	専攻科英語専攻設置認可
平成 7. 4. 1	専攻科英語専攻開設（定員20名　2 年）
平成 7.12.22	専攻科食物栄養専攻認可
平成 8. 4. 1	専攻科食物栄養専攻開設（学位授与機構認定　定員10名　2 年）
平成 9. 3.15	専攻科英語専攻第 1 回卒業式
平成 10. 3.14	専攻科食物栄養専攻第 1 回卒業式
平成 12. 3.31	長崎短期大学専攻科　英語専攻廃止
平成 12. 4. 1	長崎短期大学食物科入学定員を120名に、英語科入学定員を100名に変更
平成 12. 4. 1	長崎短期大学幼児教育学科を保育学科に名称変更
平成 12. 4. 1	長崎短期大学保育学科入学定員を80名に変更
平成14. 2. 4	食物科製菓養成施設に指定される
平成14. 2. 13	食物科調理師養成施設に指定される

平成１３年度 自己点検・評価報告書

自己点検 評価項目	教育理念 １　建学理念・目的の点検，見直し

現状

本学は昭和２０年敗戦の年に誕生をした。本短期大学は学校法人九州文化学園を母体とする為に、その設立に趣旨が、建学理念に深くかかわっている。当時、学園創立者（短期大学創立者）安部芳雄氏は以下のように設立の趣旨を述べている。

『昭和２０年！忘れようとして忘れることの出来ない敗戦の年であります。８月１５日、無条件降伏の夜であった。私の生涯の方向を換えた運命の日でもありました。焦土と化した我が佐世保市……。勝ち誇った占領軍の進駐！生きる力も希望も失ってただのたうち廻る人々の群！あちこちに翻る星条旗のはためき！初めて出会った敗戦という現実の厳しさは今も尚、脳裏をかすめて忘れることはできない。この時程、これからの日本、これからの民族の将来について考えさせられたことはなかった。何もかも持てる凡ての物を失い尽くし、住む家もなく、身にまとう衣物もなく、食べるものさえない我々日本人は、これから先どうして生きていけるのか、殊に生きようとする希望さえ失った民族の明日の運命は一体どうなるか。占領軍のチューインガムを乞い群がる子供達の姿は、余りにもみじめであった。私は思う。たとえ何もなくても我々人間には知恵がある。力がある。この叡知と勇気を取り戻すことが今なすべき最も急務ではないか、外に失ったものを内で取り戻すことである。若い人々に新しい時代に生きる息吹を与えることである。剣の音の声たえた今、悪夢のような戦いは終わったこれからの新しい国家の建設は道義を建て直し文化を高める教育の力以外にはないと決意した。

１）戦時中、いったい女学校で彼女等は何を学習したか。何もしていない。４年間在学中３年間は動員学徒として軍工場にかりたてられ、卒業証書も工場の防空壕で渡されたではないか。

２）軍の壊滅した今後の佐世保市にとって何が一番大切なのか、従来ともすれば兵営文化とさげすまれた軍港都市に、代わるべき大切なものは文化都市建設ではあるまいか。未だに一校だにない高等教育機関の設立こそ文化都市発展へのきっかけである。専門学校、大学の設立である。

こうして九州女子専門学校の設立を決意した。』

このような建学の理念を骨子として本学の建学精神は次の３点に集約される。

（１）高い知性と豊かな教養を持つこと。
（２）たくましい意志と健康な体を養うこと。
（３）日本女性の誇るべき徳性と品格の香り高さを身につけること。

昭和４１年より発足した長崎短期大学は、教育方針として、
（１）社会の成熟化の中での人間的自立性を高める。
（２）社会の変革の中で専門的職業人としての実学と教養を高める。
（３）国際的感覚と視野を持った国際人となる。
（４）日本古来の礼節、文化を学び、徳を高める。
という四つを学問・生活の基本とした教育を行っている。

平成１３年度　自己点検・評価報告書

自己点検 評価項目	教育理念 １　建学理念・目的の点検，見直し

この建学の精神、教育方針を実現するために、
（１）茶道精神による生活の実践化
（２）師弟同行による大学生活の充実（教師と学生がつくりあげる大学生活）
（３）卒業後の目的を明確化する専門教育（資格付与等）
（４）地域社会に貢献する大学（各種行事への参加）
等の具体的方策を実施中である。

改善策

この目的の点検・見直しについては朝の職員会議、事務局会議、週１回（月曜日）の部門長会議、週１回の各学科長会議等について行われている。

このような建学の精神、教育方針は不易であっても、実際の教育的指導・研究姿勢にあっては、日々変貌するものであるから、具体的実践にあっては各部門別課によって更に話し合い、理解の合意作りを確実にする必要がある。

教職員構成

平成１３年度教職員配置（平成１３年５月１日現在）

職　名	教　授		助教授		講　師		助　手		合　計	
学科＼性別	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
食物科	5	1	1	1	0	5	0	1	6	8
保育学科	3	2	1	1	1	3	0	1	5	7
英語科	2	0	2	0	2	1	0	0	6	1
一般教育	3	0	1	0	1	2	0	1	5	3
合　　計	１３	3	5	2	4	１１	0	3	２２	１９

	男	女	計
教　員　計	２２	１９	４１
職　員　計	9	6	１５
教職員計	３１	２５	５６

長崎短期大学学生数

1　平成１３年度在学学生数　（５／１　学年・学科）

＼学科 学年	食物科	保育学科	英語科	福祉専攻	食物栄養専攻攻	合　　計
本科１学年	８７	１１０	８６			２８３
本科２学年	７２	６８	６５			２０５
専攻１学年				１３	１２	２５
専攻２学年					１０	１０
計	１５９	１７８	１５１	１３	２２	５２３

2　平成１３年度出身地域別学生数　（５／１　学年・学科）

学年	１　年				２　年				合　計			
地域＼学科	食物	保　育	英語	計	食物	保育	英語	計	食　物	保　育	英　語	計
長崎県内	５２	９２	２２	１６６	５０	５２	２０	１２２	１０２	１４４	４２	２８８
県外九州内	３４	１８	３２	８４	２２	１５	２３	６０	５６	３３	５５	１４４
県外九州外	１		１	２		１		１	１	１	１	３
海外			３１	３１			２２	２２			５３	５３
計	８７	１１０	８６	２８３	７２	６８	６５	２０５	１５９	１７８	１５１	４８８

地域＼学科	福祉専	食物栄養専	専攻科計	合　　計
長崎県内	７	１５	２２	３１０
県外九州内	６	６	１２	１５６
県内九州外		１	１	４
海外				５３
計	１３	２２	３５	５２３

3　学生数の推移（過去５年間／学科別）

年度＼学科	食物科	保育学科	英語科	福祉専攻	英語専攻	食物栄養専攻	合　　計
平成　９年度	９４	７９	８４	１９	７	９	２９２
平成１０年度	８２	６３	６０	２１	２	７	２３５
平成１１年度	８０	６７	８５	２０		１２	２６４
平成１２年度	７３	７３	６８	１４		１０	２３８
平成１３年度	８７	１１０	８５	１３		１２	３０７

平成１３年度自己点検・評価報告書

自己点検 評価項目	食物科 教育指導

1　学科経営と運営

【評　価】

１３年度は１２年度より１５名多い入学者を迎え，栄養士コースの定員を満たすことができた。

【目　標】

平成１４年度に，調理コース・製菓コースが産声をあげる。

認可がおりたのが予想を大幅に遅れ２月であったため，製菓については，不完全燃焼の状態である。

平成１５年度の募集に向け，早急に指定校の準備をしたい。また，留学生の受入れの準備平成１４年度は２年次の栄養士コースが残るため，３コース混在する形となる。最後の栄養士コースの学生を栄養士として送り出すこと，そしてこれからの食物科の柱である調理，製菓コースの基盤を作ることになる。

2　教育目標

【目　標】

学力は勿論，基本的な生活能力・社会能力を身につけるよう，出席状況や提出物の提出状況などを把握する努力をしている。また栄養士としてのレベルに到達できるよう，定期試験単位認定試験について再試験を数回行っている。　今後も授業・授業外の教育に力を入れ，栄養士として資質を高めたい。

3　教育目標達成のための教育課程の編成

【評　価】

試験ではどうにか可をとっても，実力のない学生に対して時間割外の指導を行っている。

時間割上，履修できない科目については，可能な限り時間外で再履修の学生のための授業を行っている。

【目　標】

平成１４年度から，学科改編に伴う大幅なカリキュラム変更が必要になり，講義・実習ともに２クラスがそれぞれ単独の授業になる。小人数での授業となるので，教員も授業の進め方に工夫を要する。

4　授業態度と努力事項

【評　価】

１年生の一部に遅刻・欠席・提出物の遅れなどの常習犯がいる。学生数の多さと，学生が学内にいる時間に教員の時間的な余裕がないことが影響してやや乱れがある。２年次で引き締めたい。

5　学生指導

【評　価】

学科内では常に学生に関する情報交換を行っているので，心配な学生の把握はしやすい。

クラスアドバイザーだけでなく，他の教員も加わって個別指導を行っている。

6　学科行事

【評　価】

学園祭・おくんち・おにぎり教室・国家試験対策講座など，学科教員が全員で取り組んでいる。来年度は学科の教員数が減るが，これまでのようにスムーズに運営できるか心配である。内容の見直しが必要である。学生数も減少するため，特におくんちの白蝶みこしは担ぎが最低１３０人以上必要であるが食物科の学生だけでは担ぎ手が不足する。他学科の学生の動員が不可欠である。

２年次の栄養士実習を６月から７月に移行したことで，実習前の授業回数が増え，実習に必要な必要な知識をどうにか与えることができた。実習前に行事が少ないことは望ましいことである。

【目　標】
調理コース・製菓コースは資格・免許取得のために授業時間数の規定があるため半期１５回の授業を確保しなければならない。夏期休暇・冬期休暇中の補講は必須になる。規定科目については極力休講をされたい。調理コースの学外実習は２週間で，１年次の２月から３月を予定している。事前指導が必要なためこの時期の行事について検討していきたい。

7　学外実習
【評　価】
５月・６月の２ケ月間，毎週５コマ目に事前指導を行った。実習に直接結びつく内容なので学生も真剣に取り組んだ。素直な学生が多く，実習への取組方や礼儀についてはクレームはなかつたが，学力については，教員が心配していた学生についてやはり学力不足との指摘があった。　事前指導もレベルや実習先に対応したものが必要だと感じる。

8　資格取得と就職・進学
【評　価】
本年度の栄養士免許取得者は６９名中６８名
就職・秘書士の免許取得者は年々減少していたが，来年度よりどちらも閉講となる。
専攻科への進学希望者は例年に比べ増加した。

9　その他
授業評価が反映されていないという学生の声がある。学生の授業態度にも問題はあるが，教員側も評価を活かしていく必要があると考える。

平成１３　年度　自己点検・評価報告書

自己点検 評価項目	保育学科 教育指導

1　授業履修状況・免許資格取得

【評　価】

２年生在籍６８名中卒業予定者６７名（１名は１年時長期休業）卒業及び資格免許の必修単位を落としたものが，２科目８名いたが，卒業認定試験によって全員合格し単位を取得できた。

卒業生６７名中で保育士資格・幼稚園教諭免許を取得した者が６５名であった。（２名は必要な単位が取れず，又は取らずに卒業のみ）

１年生は，進級生は１０７名で卒業や保育士資格・幼稚園教諭免許に必要な科目の単位を落として，再履修が８科目延べ２５名，単位認定が８科目２４名に及んだ。これは学生個人の努力不足に加え，一方では学生数の増加により，学科目の理解を促す授業体制及び，理解不足を補うための学生への個別対応が不十分であったことを示唆している。また，時間割作成の際，常勤・非常勤を問わず教員のコマ配置が難しく，２年次の再履修が困難であることや，選択科目に履修希望者の偏りが出てしまうことなど養成課程運営上の問題が表出している。

2　クラス運営

【評　価】

２年生は，入学当初７３名が在籍していたが進路変更・家庭の事情等による退学や長期休学で６７名の卒業となっている。

１年生は，当初１１０名の入学であったが，入学まもなく経済的理由により１名除籍でその後，２名退学し，現在１０７名が在籍しているものの，親の転勤により１名転出や学習意欲等で迷い退学の意向を示している者が２名おり，指導中である。

本年は学生指導面やクラス運営面で纏まりに欠け，クラスアドバイザーを中心に苦労の多い年であった。特に１年生は定員増に伴う２年目で，多数の学生を相手に学生指導的状況の把握も難しく，学生自身も一体感に欠けた。

生活面，学習面でも，指導を要する学生も多くいた反面，種々の問題に悩む学生に対する迅速な対応ができなかったように思われる。

3　授業態度

【評　価】

２年生においては，全体的には比較的落ち着いた授業態度であったが，一部には授業中の私語や授業を乱す行為・遅刻や欠席が目立つ学生が数名おり，個別指導を行った。

１年生においては，年度当初は緊張と期待，相互知らない関係から落ち着いた授業態度であったが，その後徐々に真面目に取り組む学生と，そうでない学生との差が目立ち始めた。１００名を越す授業においてその差は顕著であり，私語によって教員の声が聞こえない，教室の後ろから黒板の字が見えない等，不満がおこっている。

学びたい学生のやる気を無くさない授業の体制を創り出すことが望まれる。

4　学内外の実習

（１）学内実習

【評　価】

１年時秋の実習は，授業と平行して実施すること，また準備不足であることも否めないが，２年時の学外実習に向けての意識付けという意味わもっている。今年は人数も多く附属幼稚園には例年にも増して負担をかけたが，学生の実習態度はおおむね良好であった。

（２）学外実習

【評　価】

２年生の保育所実習・幼稚園実習では，全体的には実習先において高い評価を受け

ていたが，一部には体調不良や実習の不安により中断したり，勝手に実習を放棄した学生もおり，その対応に苦慮した。これらの学生には実習の延長や別の場所での実習を課した。１年生の施設実習においては，学生数の増加により新しい実習施設を開拓して，今まで経験していない種別の施設にも実習を行っている。また昨年度の反省もまえ事前指導の内容も深め対応を行った。現在２・３月の期間で実習を行っているがもふま大きな混乱もなく学生もそれぞれが緊張や戸惑いながらも前向きに頑張っているようで，大きな問題もなく全体的良い評価を受けている。

5　行事や対外活動

（1）音楽と動きの夕べ

【評　価】

学生と指導教員の努力で，内容的にも年々充実し，卒業生を含め多くの観衆が立ち見が出るほどの成功を納め，恒例のイベントとしてすっかり定着している。学生もこの行事には一段と力が入っているようで，企画・練習・発表とこれを通して多くのことを学んでいるものと思われる。だが，学生数の割りにはクラブに参加していない学生も年々多くなっており，気になるところである。

（2）クラブ（マーチンク・オペレッター・ダンス）活動

【評　価】

佐世保祭りを始め市内の多くの行事に参加して学生も励みとなっているようで，地域参加では大きな役割を果しているものと思われる。

昨年の佐世保祭りは，雨天のため会場に行きながらマーチング部の出場ができず残念でしたが，この時の出発・出場の決断にはやや不適切であった。ダンス部は市内の「さるくシティー４０３」連隊として参加し，よい経験になつたものと思う。

（3）幼児画展

【評　価】

保健所・幼稚園との地域連携を含め学園祭のイベントの一つとしてすっかり定着し効果も大きいものと思う。昨年は初出場の幼稚園が増えた。出品した子どもと家族・育所・幼稚園関係者を学園祭の中でもっと一体感をもつたものに発展できないかという思いもある。

6　就職・進学

【評　価】

本年度は例年より早く就職内定者を出し厳しい就職情勢の中でも保育士資格・幼稚教諭免許をいかし有利に進んでいる。

本年度は留学生（英国）大学編入（長崎国際大学）ホテル・企業や書道講師と保育科生の進路としては，従来に比べ多様化した。だが一部では就職意欲やいまだに進路を迷っている学生もおり気になるところで早くからの対応の必要を感じている。

来　年　度　の　目　標

1　教育課程の変更

１４年度入学生から保育士養成課程が変更され，先般，本学のカリキュラムについても厚生労働省に変更届けを提出したところである。

主な変更点は福祉系・養護系学科の必修科目増加・実習（施設分野・実習Ⅲ新設）強化，家族援助論・新設技術系科目の弾力的・特色的運用でこれらの課程に添い学生のニーズ社会の要請をふまえ運営していきたい。

2　施設整備及び教育環境整備

来年度も入学生が１００名を越える講義室・ピアノ室・図工室等の効率的運用・備品の整備・更衣室の整備等を行い快適な教育環境を整えたい。また，教職員においても職員や非常勤の加配等が必要となる。できるだけ小人数による努力等，授業体制の確立・充実を図る必要がある。

3　学生指導

来年度１００名を超える新入生煮２年生１０７名加え２００以上の学生をかかえることになる。

本年度の反省をふまえ可能な限りの個別対応の視点をおき，学習意欲向上やクラブ活動，より充実した学生生活が出来るよう教員側のサポートを行っていきたい。
ただ，教員のきめこまやかな指導と併せて，学生が自ら考え積極的にクラス運営に関わらせる指導手法が求められる。

4　男女共学
保育学科だけでも１０数名の男子学生の入学が決定している。男子学生が入ることで全体の活性化になるよう工夫をし，授業内容や諸活動に効果的に活かして行ければ良いと思う。ただ女子教育の歴史の中で男子学生を迎え入れるので，彼らの精神的ケアやその他男性的対応面が想定されれば，特に男性職員で協力しながら力を入れる必要も出てくるものと思われる。

5　教育課程変更に伴う議論
保育士養成課程の変更に伴い，従来重視されてきたピアノ・図工Ⅰ・体育等の技術系科目の弾力的運用の中で必ずしも全科目必修の必要がなくなるが，就職する職場においてはこれらの技術系のニーズが高いものと思われ，学校としても養成の特色と現場ニーズ，方針，もちろん学生の意思等を勘案しながらまた，幼稚園教諭の免許も含め履修方法等の論議を一部に行っていく必要がある。

6　就職指導と開拓・進学
現在までは，６０～７０名の卒業生で高い就職率を維持していたが，来年度は１００名以上の就職進路を勧めることとなる。早いうちから学生への就職指導に加え，職場の開拓をより積極的に進めていく必要がある。併せて，専攻科への進学，大学編入も視野に入れた強力な指導が必要である。

平成１３年度自己点検・評価報告書

自己点検 評価項目	英語科 教育指導

1　学科経営と経営努力

【評　価】

（1）　英語科学生数は前年度よりも多少増加し，新しいスタッフ１名加わり学科運営をスタートしたが，年度当初から「国内ホームステイ」などのアメリカ基地関係の活動に対して基地弁護士からクレームがついて実施できなくなった。さらに９月１１日の米テロ事件により，「アメリカンスクールとの茶道交流会」や「アメリカ短期研修」なども実施することができなくなった。１年生に対しての状況説明に苦労した。

【目　標】

（1）　米軍基地からのクレームもあり，現在の基地依存型のプログラムを大幅に変更する予定である

（2）　外的悪条件も重なり，残念なことに来年度は日本人入学者数が減少することになつてしまった。今後も，学科内容をさらに魅力あるものにし，学生募集に努力したい。

（3）　１４年度は，入学する留学生のレベルが高いと予想されるのでそれらの学生が満足できるカリキュラムになるように内容の見直していきたい。

2　英語科の教育目標

【評　価】

（1）　英語科では，全ての学生に最低でも日常生活で必要となるレベルの英語を身につけさせ，英語でコミュニケーションがある程度までできるようにすることを第一の目標にしている。

（2）　同時に，学生の卒業の進路を考慮に入れ，観光・サービス関連の授業やインターンシップを正規のカリキュラムに採り入れ，卒業後則戦力になる人材の育成を教育目標にしている。今年度，この二つの目標はおおむね達成できた。

3　教育目標達成のための教育課程の編成（開設科目及び時間配当の特徴）

【目　標】

（1）　英語に関しては，外国人講師により月曜日から金曜日まで毎日，小人数制，レベル別の集中英語クラスを設けている。

（2）　外国人講師が英語で授業を英語で行う「ライティング」「ビジネス英語」「児童英語教授法」に加えて，１４年度より，ある特定の国について学習する「海外事情研究」も設ける。

（3）　オーストラリア・コフスハーバー市（佐世保市姉妹都市）にある国立サザンクロス大大学・英語教育センターへ，希望者を１年後期４ケ月（１０月～翌１月）留学させる。費用も，４ケ月間で４５万円前後＋渡航費とかなり安く，オーストラリア総領事館も後援している。

（4）　今まで実施してきたイギリス・アメリカへの海外短期研修（３週間約４０万円）は，今年も十分な人数を確保することが難しく，イギリスのみ１２名のみの参加となった。
　来年度からは中期プログラムを開始するのも考慮に入れ，２週間約２５万円程度で実施することをペース側と検討している。

（5）　姉妹校同志でむすんだグローバル・カレッジ・ネットワークに加盟し，学生を加盟へ留学させることが可能となる。加盟大学のある国，イギリス・アメリカ・オランダ・ドイツ・タイ・中国・韓国など。

（6）　専門科目として子どもに英語を教える「児童英語教授法」に加え，外国人に日本語を教え「日本語教育入門」を開始し，これらに付随した教育実習（本学・幼稚園・英語学習塾）も充実させる。

（7）　１年次に３回（５月・９月・２月）統一のアチーブメントテストを実施して，学生のの英語力を調べ英語力の段階的レベルアップを図る。この結果を元に，学力の低い学生に対しては学力をつけさせたい。

（8）　希望者に対しては，例年どおり，「英検・ＴＯＥＩＣ」，「ＴＯＥＦＬ（留学用）」

の課外講座を実施する。但し，「観光英語検定」講座に関しては，学校行事の都合上試験が実施できなくなるので，来年度から実施しない。

（９）　教職課程履修者が減少しているが，緒情勢でやむをえない。それぞれの学生の実力養成に努めている。

（１０）　なるべく基地内部を使用しないようプログラムに工夫を凝らし，１４年度も授業以外の場で，佐世保在住の外国人と定期的に異文化交流の催しを企画し，学生の英語力を実際のコミュニケーション活動で確認させて，さらに英語を勉強したいという動機付けを与えるようにする。

「異文化交流ＢＢＱ＆ボーリング大会」４月
「英会話クラス親睦パーティー」５月
「異文化交流パーティー」６月
「アメリカンスクールとの茶道交流会」１１月
「異文化交流クリスマスパーティー」１２月

（１１）　ビジネス関連では，１４年度入学者から「秘書士」認定証取得を中止し，その代わり検定試験取得（「秘書検定」「ビジネス実務マナー検定」）を目指したカリキュラムへ移行する。これにより，現在の科目を整理し，より就職に有利な科目を配置する。例えば最新の新聞記事内容を扱う「時事研究ＩＩ」，検定の内容を中心に構成している「秘書学ＩＩ」など。

（１２）　留学生関連科目では，留学生が日本の生活・習慣になるべく早く馴染むことができるように，中国人の先生による日本の生活・習慣を学ぶ（中国語での）授業「日本語事情特論」を設ける。

今後，留学生用カリキュラムを系統的に整備し，関係教員が組織的に指導する体制をつくっていきたい。

4　授業態度と努力事項

【評　価】

各教員が自分の授業評価に基づき，授業の改善に努力している。

5　学生指導

【評　価】

４年制大学志向もあり，年々，短期大学へ入学してくる学生の学力が低下してきている。それと同時に，心身的にも悩みを抱えている学生が増えてきている。各教員，それぞれのケース（学生）に適切に対応するために，専門の教員と協力し，学生対応に努力している。

6　学科行事

【評　価】

（１）　第６回の市民公開講座「オモシロ国際学」を実施し，好評であった。引き続き，１４年度も実施する予定である。

（２）　学園祭では英語科は，英語，日本語スピーチコンテスト，英語科プレゼンテーション，留学生のアジランレストランヲ実施した。盛況だった。

（３）　佐世保祭りに関して，今年度は雨のため中止となつたが，学生数の減少もあり，例年行っている英語科の「コスチュームパレード」も再検討が必要とされる。

7　学外実習

【評　価】

（１）　ハウステンボスインターンシップは，今年度は１４名が参加した。受入れ先での学生の評判も非常によく，参加した学生の多くが自信を持つようになり，就職活動への大きな動機づけとなっている。

（２）　来年度は，新たにオーストラリアへの中期留学（４ケ月間）を実施する。留学期間中，希望者は現地の公立学校での日本語教師補助をさせる予定である。

（３）　「児童英語教授法」の授業に付随させて，佐世保市内の塾での児童英語教育研修も計画している。

8　資格取得と就職・進学

【目　標】

（１）　１３年度は，英語科全体で総合的に資格取得を進めていなかつたが，１４年度から，就職の際に有利であるということだけでなく，学生に学習意欲を出してもらい，より効率的に勉強してもらうために，いくつかの分野で検定試験等を導入して，積極的に学生に受験させていたい。

（２）　英語系では，英検，ＴＯＥＩＣで各学生に目標値を設定させ，卒業までに必ず何級，或いは何らかの資格を取得するように指導する。

（３）　第２外国語関連では「フランス語検定」「中国語検定」「ハングル語検定」の導入を予定している。

（４）　ビジネス関連では，１４年度入学生から「秘書士」免許取得を中止し，その代わり「秘書検定」「ビジネス実務マナー検定」を取得させるようにする。

（５）　コンピューター関連では，現在すでに実施されている，卒業までにほぼ全員に「ワープロ検定を取得させているのに加えて，表計算エクセルの検定である「コンピュータ利用技術検定」も夏季集中講義として新たに設け，資格を取れるように指導していく。

（６）　就職・進学指導も就職課と協力して，例年通り行うことができ，現在９割近くの学生が決定しており就職率は良い。しかし，学生の中には就職先を紹介しても真剣に就職活動に取り組まない者も少なくなく，対応に苦慮する場合がある。

平成１３年度　自己点検・自己評価

専攻科食物栄養専攻

教育理念と目標

短期大学志望から４年制大学への志望が増加している中、短期大学の特徴を生かして、４年制大学と同レベルの教育研究の内容充実に努めるべく専攻科食物栄養専攻を平成８年度に設置した。食物栄養についての専門領域に関する知識を習得させ、医食同源の考え方から、地域医療界の協力を得て、臨床栄養学的方向を重視し、健康科学中心の指導内容を中心とした専攻科を目指している。専攻科修了までの２年間は、少人数による充実した教育が受けられる講義科目も専門科目が多く、４年制大学の卒業要件を上回る単位を修得させる内容である。さらに、学位授与機構に認定も受け、栄養学士号の授与申請も受けられる。

現状

次年度７期生を迎えるが、毎年度本短期大学出身以外からの入学生も迎え、本専攻科の認知度も深まっている。地域への貢献においても「糖尿病展」におけるボランティアなど専門性を生かした活躍をしている。尚、過去３年間の専攻科の管理栄養士国家試験合格率（合格者／定員）は 63 %で九州にある６専攻科ではトップの鹿児島純心短期大学 71 %についで２位と上位にランクされ、３位尚絅短期大学 52 %、４位活水女子短期大学（２年間平均）42 %、５位鹿児島女子短期大学（１年制）20 %、６位佐賀短期大学 14 %であり、ちなみに全科目受験の過去３ケ年の平均合格は 18 %前後と推定されることから約４倍の合格率を誇っている。

九州文化学園全体への寄与

原耕平先生をはじめとする長崎大学医学部教授陣の協力により、本専攻科のみならず、長崎国際大学社会福祉学科、九州文化学園看護専攻科の地位向上には多大な協力を頂いている。また、長崎国際大学の新学部健康管理学部健康栄養学科設立においては、本科共々大きな礎となった。特に厚生労働省からは本専攻科の実績が常にチェックされ、申請相談ごとに養成課程である以上管理栄養士国家試験合格率 100 %と言われ続けてきた。そこに前述の 63 %、九州２位の実績が大きく影響していることは九州文化学園全体への寄与と言っても過言ではない。

検討課題

１）学位レポート

栄養学士号取得に伴う学位レポートの作成には、多くの時間を要すが、学外実習や管理栄養士国家試験の勉強との兼ね合いが難しいところである。学位レポートの早期テーマの決定など対策が必要である。

２）管理栄養士国家試験

年々全国的に合格率が低下している国家試験であるが、本専攻科も同様である。模擬試験受験や対策講座の受講など実施しているが、さらなる対策が必要である。１年次からの意識づけなど今後の課題である。

専攻科福祉専攻

本年度の反省･総括と来年度の課題

（本年度の反省・総括）

・クラス運営

平成１３年度は新短大卒業１２名(全員本学幼児教育科出身)と社会人１人(他県保育専門学校出身･主婦）の１３名であった。

クラスは少人数と、すでに気心の知れた仲間であり、その中に社会人の方もよく溶け込み終始和やかな雰囲気の中で１年間運営ができた。

授業面では活発な質問も出され思うように授業が進まない一面は伺えたものの、それだけ熱心で身についたと思われ、全員参加の意欲的な中で授業が展開されたことは　良かったと思われる。

・単位履修状況

定期試験等においても、例年に比べると再試験を受ける学生が全体としては少なかったが、１～２の科目では再試験、認定試験に持ち込んだ科目があった。幸い本年度は全員が退学者もなく、無事全課程を修了し卒業できたことは喜ばしい。

・教科指導

本年度は、新たに福祉現場の施設教員を新しい講師に迎え、また専任教員も従来にも増してより実践的な教科指導に力を入れた。

少人数でもあり個別指導を含め、教員との触れ合いが従来にも増して多くとれ、それだけ介護福祉等に対する視野と人間としての成長や幅広く意識等高めることが出来たと思われる。

・学生指導

専任教員を中心に学科や生活面に不安視される学生に対し、個別指導を強化した事もあり、本年度は特に大きな問題もなく全員元気に卒業を迎える事が出来た。

また本年度は、例年に比べ欠席や遅刻も少なく、落ち着いて身についた学生生活が出来たものと思う。

・実習指導

５・６月の施設実習では不安や戸惑いの声も聞かれたが、10 月(２３日間)の最後の実習では、施設職員や本学実習担当教員の巡回指導(週２回義務付)の指導に助けられ、成果の大きい身についた実習を終えることが出来たと思われる。

２月､施設職員を招いてのケースレポート発表会も内容のある発表が出された。この日出席された施設指導者と実習担当者との懇談会でも学生の成長ぶりと、介護の対応策等を評価された。

・就職、進路

就職、進路先としては介護職に４名(特別養護老人ホーム２名．老人保健施設１名．知的障害者施設１名)、保育士５名(保育所４名．乳児院１名)、幼稚園２名、進学１名(長崎国際大学社会福祉学科３年編入)、未定１名の現状である。

本学卒業生は、例年幼児教育出身であるところから、当初から保育士や幼稚園教諭を目指し、将来のための介護福祉士の資格取得者等目的のものも多い。しかし、保育等の分野に進んでも近年障害児保育等も盛んに行われており、学んだ知識・技術は種々の面で生かされるものと思われ、それだけ幅広い視点での活動が出来るものと思われる。

・まとめ

この１年ぎっしりと組まれた時間割の中で、学生は介護福祉に係わる諸学科実習等に苦労しながらよく努力できたと思われ、それだけ知識・技術の習得と併せ、よい思い出も出来たものと思う。学生１人ひとりが１年前に比べ随分、進歩・成長したのではないかと思われる。

(来年度の課題)

- 来年度は社会人１名を含む６名の入学が予定されており、今年度より更に学生数が少なくなり学生の確保が大きな課題である。学内進学者等、新卒学生に対しもっと社会経験者が加わることはクラス運営面でも落ち着きや意欲の向上等では大きな力となる。
- 今日、就職先の要望は即戦力の職員を求める声が強く来年度においてもより実践に即した知識・技術の習得を目指した教科の指導に心掛けたい。

平成１３年度　自己点検・自己評価

茶道文化

教育理念と目標

１）茶道創学の精神による茶道の位置づけ

昭和２０年、本学の創立時に、創立者安部芳雄氏は、お茶の精神を礎とした人間教育を思い立ったが、当時の教育理念の中では、「茶の心」という具体的表現はなく、「日本女性の誇るべき徳性と品格の香り高さを身につけさせよう」という中に茶の精神が込められていた。創立当初、第四十代松浦藩主（第十二代鎮慎流宗家）松浦素氏と出会われ、鎮慎流を学ぶことによって、創立者自身の茶が出来上がった。

「茶の心」とは

(1)茶は日本古来の歴史の継続であり、日本の生活歴史を学ぶことによって、日本国民としての自覚を持ち、自国の誇りをたずさえた国際人をめざす。

(2)茶は文化である。それは精神の文化、芸術の文化、情操の文化である。文化を学ぶことによって、格調高い教養人、賢い知識人をめざす。

(3)茶は礼である。礼に始まって礼に終わる点前は、人と人とのかかわりを大切にし、相手の気持ちを思いやる心の育成をめざす。

(4)茶は和敬清寂の心の具現化である。和やかな心、敬う心、清らかな心、悟りの心を育む豊かな人間をめざす。

この四つの精神を「茶の心」としてとらえ、その具現化をはかる。

２）本学における茶道の歩み

創立者安部芳雄氏は、昭和 45 年より、本学教職員の一部に対して、茶を共に学ぶことを始めた。昭和 48 年に茶室「耳順亭」が完成。これ以降、本学職員は全員茶の研修を行うことになり、建学の精神を教職員が学ぶことになった。それまでは高校、短大の茶道部の活躍のみが茶の具体的教育実践であったが、昭和 51 年に短期大学で日本文化という講義を設定、茶道点前を教えることになった。更に調理師専修学校では茶懐石の授業が設けられ、高校では必修クラブに茶道部が設けられた。幼稚園では、平成６年度に５歳児、４歳児に都合５回の茶の授業が設定された。昭和 58 年に日本文化の講義は文部省よりの指導もあって、茶道文化という名称で正式に認知された。国際化の観点から国際交流課と協力し、茶道を通しての国際交流ということで、外国からのお客様に茶会や茶道体験を催している。また、地域との交流も大切にし、色々な場所に出向き茶会を実施している。平成 12 年に開学した同法人の長崎国際大学でも茶道文化の講義が設けられ、選択科目であるが男子学生も含め多くの学生が受講している。また、単位互換制度により、長崎県立大学からも５名の受講生を迎え、さらなる広がりをみせている。

３）茶道文化講義計画管理

茶道文化は１年通年、２年半期とし、２年後期は歴史という授業で茶道の更なる充実を高めている。現在、単位認定者として安部直樹、嶋内麻佐子両名であり、授業助手という指導者が総勢６７名になっている。平均１人の先生が７～９名の学生を指導してい

る。

4）経営と運営努力

年度当初に全体会議を実施し、茶道文化の意義及び統一見解を持つようにしている。また、実技面において統一を図るため毎月第２金曜日に会議を実施し、実技向上のため週１回の研修会も実施している。

授業計画

１年

	授業題目・概要（前期）		授業題目・概要（後期）
1	茶道の意義・礼儀・先生方の紹介	1	実技テスト
2	礼法・帛紗ばさみの中の説明・点前披露	2	各班のテストの反省・濃茶前半
3	道具の説明（黒板・テキスト）道具の収納場所の確認。帛紗のつけ方・取り方・さばき方	3	濃茶後半
4	茶杓と棗の清め・仕込み茶碗・茶巾のさばき方	4	濃茶復習・客点前
5	置きあわせ・洒の持ち方・水指の持ち方	5	茶道大会時に使用する道具の説明
6	復習と柄杓引きまで	6	パート別練習（会場確認）
7	復習と茶筅通しの前の湯を入れるまで	7	パート別練習（水屋・接待・点前・客点前）
8	復習と茶筅通し	8	第24回　茶道大会
9	湯の捨て方・茶碗の拭き方・茶巾の扱い・抹茶の入れ方	9	濃茶復習
10	復習と水指しの蓋の扱い・茶の点て方・茶碗の出し方・戻し方・客点前・答礼まで	10	初釜
11	総復習	11	濃茶復習
12	総復習	12	松芳忌
13	仕舞う段階（薄茶点前終了）		
14	総復習		
15			

２年

	授業題目・概要
1	濃茶・鎮信流について・日常の作法のあり方について
2	濃茶・せん茶の種類と入れ方について
3	濃茶・せん茶のお客様への出し方
4	濃茶実技テスト
5	花寄せ（亭主と客とのやりとりについて・花の選び方）長板見本点前
6	長板点前（薄茶）・接客についてⅠ
7	長板点前（薄茶）・接客についてⅡ
8	隅切り棚の点前（薄茶）
9	隅切り棚の点前（薄茶）
10	復習（立礼の点前）
11	復習（立礼の点前）
12	実技テスト（長板薄茶・隅切り棚薄茶）
13	炭点前・炭の説明（茶会の流れについて）

検討課題

1）国際交流課との連携

年々茶道を通しての国際交流行事が増えている。内容等のきめ細かい打ち合わせが必要であり、事前連絡を含め国際交流課との密なる連携手段を考慮していかなければならない。

2）留学生の対応

多くの留学生を迎え授業を行っているが、留学生の日本語能力の低下などにより言葉の壁を抱えながらの授業である。少人数制や日本語能力を考慮した班編成などさらなる検討や英語科との連携も必要である。

3）教職員の意識づけ

茶道文化は多くの教職員が携わっているため、さらに創学精神の意識づけを行うと共に、理解を求める努力をしていく。

4）長崎国際大学との連携

長崎国際大学が開学して２年が経ち、茶道文化を通しての交流も多々みられた。今後さらに増えると思われるので、教職員の協力態勢を整えなければならない。

5）茶道大会のさらなる充実

茶道文化講義２年間の集大成ともいえる茶道大会が今年度、25 回目の節目の年を迎え、多くのお客様に来ていただき盛大なものとなった。次年度、さらなる飛躍を遂げるためにも計画を早期に進めていかなければならない。

平成１３年度 自己点検・評価報告書

自己点検評価項目	学生募集 平成１４年度入試結果と今後の学生募集

【 現状 】

１．入試結果

（１）入学定員　２２０名　［食物科　４０名・保育学科　８０名・英語科　１００名］
（注）前年比食物科入学定員減▲８０名（系列四大への改組）
（２）入学者数　１９３名　［食物科　１５名・保育学科１１０名・英語科　６８名］
（３）定員充足率　８８％　［食物科　３８％・保育学科１３７％・英語科　６８％］
（４）前年対比　▲８９名　［食物科▲７２名・保育学科　±０名・英語科　▲１７名］

２．入学者分析

（１）高校所在地別入学者上位３県とその比率／県別入学者前年対比

平成１４年度（全体比率）	平成１３年度（全体比率）
１位　長崎県　１１０名／５７％	１位　長崎県　１６１名／５７％
２位　熊本県　２３名／１２％	２位　熊本県　１９名／　７％
３位　福岡県　８名／　４％	３位　福岡県　１８名／　６％

（２）入試形態別入学者／推薦入試・一般入試シェア
■推薦入試　１３３名：６９％　■一般入試６０名：３１％

（３）社会人入学者／前年対比

平成１４年度	平成１３年度
食物科　０名	食物科　２名
保育学科　４名	保育学科　３名
英語科　１名	英語科　０名

３．総評　平成１４年度入試および学生募集結果においては、系列四年制大学への改組による入学定員８０名の移行に伴い、入学定員が全体で３００名から２２０名に減少したたことが前提となる。だが、各学科の入学定員充足率については前述のとおりで、食物科および英語科については、これまでの就職実績に加え、さらに教育内容（独自の実習、新しいプログラム等）の充実を計り、特色ある本学ならではのカリキュラムを企画する必要があり、それを如何に有効的に高校の生徒たちへ広報してゆくか、その方法も充分に検討してゆかなければならないと考える。
ただし、現在、短期大学へ問われているのは、就職や四大進学、または留学展開等に繋がる教育システムや独自のプログラムであることがあくまでも基本であり、それを如何に正確に、より効果的に伝えるかが、毎年の学生募集広報活動の課題であると考える。

【 改善策 】

１．入学試験のあり方については、原則として現状の実施方法を変更する考えをもっていない。学科によって異なるも、まずは定員充足が第一目的の現況の中、入試選抜といった考え方をもつ余裕はない。ただし、国（文部科学省）の方針等が打ち出された場合は例外となる。

２．平成１４年度から全学科男女共学導入の結果、全学科で２２名の男子学生を受け入れた。平成１５年度学生募集活動におけるここ半年間においては、食物科、保育学科への男子
→ 次ページへ

平成１３年度 自己点検・評価報告書

自己点検評価項目	学生募集 平成１４年度入試結果と今後の学生募集

【 改善策 】

進学者のニーズを感じており、今後も積極的に募集活動に専念してゆきたい。

3．平成１５年度学生募集において、平成１４年度開設の食物科の製菓コースおよび調理コースを始めとして、他の英語科、保育学科に対する九州各県、山口県の高校を対象として、本学への進学希望調査を計画してゆきたい。

4．我々は、今、短期大学の真価を問われている時と判断し、今一度原点にもどり、他の大学、短期大学、専門学校からの情報も参考とし、さらなる教育の充実を計り、その中で入口の学生募集広報活動の強化、充実および出口の就職実績や海外姉妹校への留学展開および四年制大学への編入実績の結果を出す体制を作り上げて行くことで、今後の学生獲得へ展開してゆきたい。決して近道はなく、常に前向きに改善、改革を進めることが必要である。

5．各種の進学説明会において、直接高校生へ説明できる機会を重視し、各高校単位で開かれる校内での進学説明会へ積極的に参加する。講話形式の分野別ガイダンスには特に、学内教員の協力を得て参加してゆきたい。

6．オープンキャンパスについて
①オープンキャンパス参加の必要性を、今後も高校生へ訴えてゆく
②生徒自身の参加型オープンキャンパスを常に実施してゆく
③オープンキャンパ案内と本学学校案内を併用したポスターを今後検討してゆきたい

7．食物科のもつ中学校教員免許（家庭）養成を再開し、調理師免許を持つ、家庭科の教員養成を今後、検討してゆきたい。

8．系列長崎国際大学へ編入後（特に国際観光学科）に、高校教員免許が取得できる体制創りを長崎国際大学へ今後要請してゆきたい。

平成１３年度 自己点検・評価報告書

自己点検 評価項目	学生課 学生生活相談

1　指導（健康指導・生活指導・進路指導）

【評　価】

（１）健康指導

今年は健康指導（精神的・肉体的）においていろいろと考えさせられるケースが増えたように感じられる。特に精神的な面において大きく悩みを抱える学生が年々増えているように思われる。そしてその指導においてはもはやＣＡ個人で解決できないケースも増えてきているので，専門的なスタッフの育成・専門的な機関との連携も踏まえた対応が迫られている。

（２）生活指導

今年は，生活指導上の大きな問題はなかつたが，近年入学した学生の質的低下は著しく，まさに家庭内におけるしつけ（寝坊・遅刻・欠席）まで本学教員ががしなければならないケースも少なくなくなった。

学校にこなくなつたために退学・卒業延期を余儀なくされる学生もでたが，今後はさらにこのような学生が増えると思われれる。ＣＡの意識改革と家庭を含めた指導のあり方の検討が求められる。また，防犯指導（悪徳商法や出会い系サイト問題）については年度当初だけでなく１年間注意を促す必要がある。

（３）進路指導

学生の努力に加え，就職課やＣＡの指導もあり，就職難といわれる中で健闘している。ただ留学から帰国した学生への就職指導などについて検討する必要がある。

2　学園祭や茶道大会など，学生主体の行事の運営

近年はリーダーシツプをとれる学生が減ってきているので，集団（実行委員）を教員がまとめあげて引っ張らないとうまくいかない面がある。しかし，師弟同行ともいうべき教職員が一体となった運営については，賛否意見はあると思うが，学生たちは好意的に受け止めている。来年度は男子学生が入るので，リーダーシップという点で変化が訪れることを期待したい。

3【改善策】

（１）健康指導については，今後ケース検討会や講習会を実施し，教職員が学習できる機会を設けていく必要があるので，平成１４年度には実施したい。

（２）相談業務については，広く多くの人から相談を受け付けるシステムを作るために「相談箱」や「相談メール」を設け，気軽に相談できる体制を作っていきたい。保健室との連携はもとより，最終的には，ケースによっては学外の専門機関にも相談できるシステムを作っていきたい。

（３）生活指導については，男子が入学することによる学内禁煙の増加が指摘されている。しかし，次年度の男子入学生の数からすると，学内禁煙が大きく増えることは予想されないので，実際入学後の指導の経過をみながら，全面禁煙・分煙（禁煙室の設置）などについて学内で十分論議する必要がある。

（４）学生からの要望として，学生駐車場の整備がでている。ロープを張り直したり，砂利で整地する必要がある。（最近の学内接触事故は，停め方の問題が大きく，その根本はどこに停めてよいのか明確でないのが問題であると指摘されている。）

（５）防犯煮ついては，年間を通して学生に防犯意識の向上を訴えていく必要がある。

（６）学生課だけの要望ではないと思うが，できれば将来的に独立した相談室を設けてほしい。個人の研究室でできない相談や，保健室で他の訪問者に相談内容を聞かれたくないケースなどで苦慮することもあるので，すべての教職員が必要に応じて利用できる相談室の設置を検討してほしい。

（７）学生との関わりについて近年困難さをかんじている教職員は少なくないと思われる。個人で（たとえばＣＡとして）問題を抱え込んでしまうとやはりそこには限度があるので，学科内や場合によっては学校全体で情報を共有して問題解決に当たる必要があると思う。行事の運営，授業などで学生と関わる中でストレスが生じるのは自然であり，そのストレスをいかに解消するかについては他の教職員の考え方，経験などから得るものが大きい。これまでもこれらについては行われてきたとは思うが，より深いレベルでの「共有」を推進していきたいと思う。

Ⅰ．教育理念・教育目標

1）短期大学の過去と現在をふまえた未来展望

(1) 本学は昭和21年戦後の荒廃した社会の中で、九州女子専門学校として開学され、その後、社会の変化と地域の要望期待に応じて変革し、昭和41年から短期大学として高等教育の一翼を担ってきた。本学には、更に深く学びたい学生のために専攻科を設置していたが、平成12年には4年制大学志向が高まる中で、短大をそのまま存続させた上で、本学園に長崎国際大学が開学された。

今後の本学の短大教育は、4年制の長崎国際大学と連携を密にして、学生により広く高い学問を効率的に学ばせる努力が望まれている。

2）建学の精神と教育理念・教育目標

(1) 建学の精神

①高い知性と豊かな教養をもつこと。
②たくましい意志と健康な体を養うこと。
③日本女性の誇るべき特性と品格の香り高さを身につけること。

(2) 教育理念・教育目標

①社会の熟成化の中での人間的自立性を高める。
②社会の変革の中で専門的職業人としての実学と教養を高める。
③国際的感覚と視野をもった国際人となる。
④日本古来の礼節、文化を学び、徳を高める。

(3) 建学の精神及び教育方針を実現するための具体的な方策

①茶道精神の生活場面での実践化
②師弟同行による大学生活の充実（教員と学生がつくりあげる大学生活）
③卒業後の目的を明確化する専門教育（資格付与等）
④地域社会に貢献する大学（各種行事への参加）

3）目標の明確性と達成度

(1) 建学の精神を継承し、社会の要請に応えることができるように教育方針を設定し、さらにその具体的な方策を立て、各学科はこれらのねらいを受けて、その具現化のためにきめ細かな教育計画を立案している。

(2) これらの目標の達成度としては、入学した学生の定着度や卒業生の進路目標の達成度で計ることができる。

学生の定着度及び就職率

学　科	入学生数	卒業生数	定着率%	H13年度就職率%
食物科	78	76	97.4	92.5
保育学科	73	68	93.2	100.0
英語科	65	63	96.9	93.3

4 ） 課 題 と 改 善

(1) 本学の教育目標の設定にあたって、日常的には高等学校側の声や地域市民の声を聞く機会があり、それらをある程度は参考にして目標設定がなされているが、具体的に意見や要望を聞く調査を実施して、その結果を目標設定に生かしたことはない。

抽出でよいから、高等学校の教職員及び保護者並びに地域の事業主等に対してアンケート調査を実施することも考えたい。

(2) 上記の定着率から考えるに、各科ともせっかく入学したものの卒業まで到らなかった学生が数名いるわけで、これらの学生がゼロになるための教育目標の設定及びその努力をしていかなければならない。

Ⅱ． 教 育 活 動

4 ） 教 育 課 程

（1）カリキュラム編成方針と教育理念・目標との関係

(1)現状

①各学科のカリキュラム編成方針

本学の教育方針及び教育目標を受けて、各学科が学科目標を設定してその具現化のための取り組みを行っている。

食物科 ― 栄養士免許取得をめざし、そのための専門科目の授業を充実させ、さらに学内外実習においても真剣に取り組み、より実践的な栄養士の養成をめざし、カリキュラムの中心は栄養士養成課程の必修科目である。今後、栄養士と管理栄養士の業務の棲み分けが進むことが予想されるなか、食物科を改編し栄養士と管理栄養士の養成は長崎国際大学で、短大では調理師と製菓衛生師を養成する教育課程に、平成14年度から変更する。

保育学科 ―乳幼児期の保育に関する専門教科の知識を学び、実習を通して、子どもとの心の通じ合える創造的で個性豊かな保育士及び幼稚園教諭の養成を目指す。国際化に対応した授業として、児童文化の中でチャイルドケアーセンター訪問を取り入れている。

英語科 ― 生きた英語力を修得し、実践的で就職に直結する科目を自分の進路に合わせて学習し、社会に有為な人材を育成する。授業以外にも市内在住の外国人とのふれあいを重視した諸行事を計画的に実施して、生きた英語力を身につけるとともに、異文化理解にも努めている。

②長崎国際大学との連携

本学卒業生で長崎国際大学３年次編入学する学生がいることを考慮して、カリキュラムの整合性を図ることに努めた。また、長崎国際大学の教授陣の力を借り、本学各学科の教育指導の充実を図った。

・観光概論 ――― 早崎正城	・コリア語 ―――李	・国際旅行業論 ― 岩本敏
・サービス産業論 ― 早崎正城	・観光地理学 ――池永正人	・ホテルネージメント ――青木
・社会福祉概論 ―― 高橋信幸	・介護福祉概論 ―坂本雅俊	

(2)課題

① 資格取得を目標にして入学してくる学生に対して、英語科では秘書士資格か教員免許しか取得でない。英語科は勿論、他学科においても希望者には資格が取得できる科目の開設が望まれており、平成14年度から新科目を一部開設したが、その充実を図っていく必要がある。

② 食物科においては平成14年度より、調理コースと製菓コースの教育課程に大改編するが、初めての科目も多く、相互に関連をもたせて、調理師及び製菓衛生師としての知識・技能を兼ね備えた実践力をもった専門家を養成するために、各領域の系統性を十分に考えた教育課程編成に努める。

③ 基礎学力の不足している学生が、専門教育科目を学習するのに困らないようにするために、教育課程編成においても、特別の工夫が望まれている。

(3)改善策

① 英語科では、平成14年度より各種資格の取得を支援するための科目の設定を図ることにした。
・秘書学ⅠⅡ　・ｺﾝﾋﾟｭｰﾀ利用ⅠⅡ　・日本語教授法　・ビジネス実務　・時事研究

② 食物科においては平成14年度の授業評価や学生の学習評価を計画的に記録して集積し、効率的な教育課程編成の改善に役立てたい。

③ 基礎学力の不足を基礎教育科目の学習だけで補うことには無理があり、どうしても正規のカリキュラム以外の部分で補充指導することが大切である。

(2)カリキュラム編成の見直し

①現状

1) 資格取得のために法規上で義務づけられている開設科目については、その条件を充たした上で、さらに、実力ある資格取得者を養成するために、２年間という限られた期間・時間割の中で有効な科目の設定に努めている。

2) 選択科目については、学生の科目選択の状況や施設関係者の意見も参考にしてカリキュラムの変更を検討している。
　また、基礎教育科目については、専門教育科目に必要とされる内容の学習を重視するとともに、一般教養として必要とされる内容の科目開設にも努めている。

②課題

1) 学校５日制導入によって月曜日から金曜日までの５日間の時間割に科目配置をすると、どうしても５時限までの授業となり、９時から１８時まで授業は、昼休みが１時間あるとしても学生にとってはかなりの負担になっている。

2) 各学科の専門教育科目の履修を中心的に配置するために、教職科目は土曜日の開設にならざるをえない状況にあり、英語科の教員免許取得希望をしながら時間割の都合から履修を諦める者もいて、短期大学のカリキュラムの宿命的な課題となっている。

3) カリキュラムの見直しは、学生のためにより必要な充実した授業を提供するという観点から大切な作業ではあるが、例年見直し作業の取りかかりが遅く決定が遅れるため、科目履修登録及び成績処理・管理のためのコンピューター内の文書様式の変更作業を短期間にせざるを得ない状況になり無理が生じている。

③改善策

1) 限られた時間割の中で、いかに豊かな教養を身につけ、職業上の実力をもった人間を養成するか大変困難な状況下にあるが、カリキュラム編成改善の問題より、各科目の授業をいかに充実したものにすか、その改善に努力する必要がある。

2) カリキュラムの変更作業はなるべく早期にとりかかり、前期末には次年度の科目が決定できるように努める必要がある。

Ⅱ．教育活動

5）教育指導

(1)ガイダンスの実施状況

①現状

新入生については、入学式の次の日からオリエンテーション3日間の中で、1日目に教務課から科目履修についての説明をし、2日目に各学科の説明の中で必修科目の学習のあり方や選択科目の履修について詳細に解説している。さらに、ホームルームの時間に、各個人の履修登録の仕方を説明して登録させ、その後5月末までに、履修辞退を受け付けて科目履修を確定している。
け後期については、4月の履修申込みの修正を受け付け、前期同様11月末までに履修辞退を受け付け科目履修を確定している。

2年生については、4月当初に履修説明の時間を特設してガイダンスを行い、1年生と同様な取扱いをしている。

3分の2以上の出席回数がなければ受験資格を失い、単位取得できないことを十分に説明しているが、欠席や遅刻が多く受験資格を失う学生がいる。この防止のために、欠席が2回以上続いたり、出席不良な学生については科目担当教員からクラスアドバイザーに連絡して指導をすることにしている。

②課題

4月に後期科目を含めて履修登録をさせているが、その段階で履修申込みをしていなかった学生に後期になって追加履修申込みを希望する者がいて、年度当初の履修申込みを多めにさせている。そのため履修辞退者がかなりの数になり、担当者の履修登録に煩雑さが多くなっている。

履修辞退届を提出しないまま受講放棄をする学生がいるため、成績処理上で成績が0点となっている。（外部への成績証明には履修しなかったという取扱いをしている。）

出席督促については、常勤教員からの連絡はよくなされているが、非常勤教員からの連絡があまり期待できない状況にある。

③改善策

学則についての理解、特に科目履修についての履修規程についての理解をもっと徹底する必要がある。何よりも、学則及び諸規程についての受けとめ方の甘さを払拭して、厳しく自己管理（出席状況の自己把握）していくことの大切さを、あらゆる場を通して指導していかなければならない。

(2)時間割編成

①現状

時間割編成の手順

ア．各学科の教育目標　重点指導の設定
イ．目標達成に必要な基礎教育及び専門教育科目の開設
ウ．各科目の担当教員の選定
エ．学科会議において時間割編成の基本方針を確認
オ．教員の担当可能時間帯、特に非常勤講師の担当科目を配置
カ．学生の学習過程で効率的な学習ができるように科目配置
キ．これらの時間割編成作業は各学科の教務課教員がコンピュータにより遂行

②課題

ア. 開設科目の決定は早期になされても、科目担当教員の選定作業が遅れて、時間割編成作業に支障が出ることがある。

イ. 時間割編成を授業を担当している教員が授業の合間に作業しており、かなり遅くまで居残って編成作業をしており、この編成作業の担当及び作業の改善が必要である。

ウ. 学校５日制に対応して、土曜日の科目をなくして月曜日から金曜日までを５時限まで開設すべきか課題であり、検討した結果土曜日も授業を配置しているが、状況の推移をみて次年度以降の検討課題となる。

エ. 選択科目の抱き合わせ（同時限開設）については、学生の履修予想数を考えて設定する必要がある。（科目によっては選択科目ＡとＢの履修数に偏りが大きい場合があった。）

ク　短期大学基準では授業は１５回実施することが基準となっているが、本学学校暦では前期の月火水木曜日が12回、金土曜日が13回で、後期は月曜日13回　火土曜日14回　金曜日15回　水木曜日16回の授業となっていて、授業時間の確保が十分ではない。

③改善策

事務当局の人事に関する作業は早期に取り組み、開設科目を担当する教員について計画的に事務作業を遂行し、時間割編成に支障がないように改善していかなければならない。

時間割の科目設定において、必修科目と選択科目のバランス及び選択科目間のバランスを十分に考慮して設定していく必要がある。

授業内容の充実のために授業時間の確保に工夫することは必要であるが、現状では限られた時間数の中で如何に効率的な授業をするかに努めざるを得ない。どうしても授業完結できない場合は、補講をして授業を完結することがにしている。

(3)成績評価と単位認定

①現状

試験規程（学則第２０条第２項）

成績処理は次の基準の成績評点によってなされている。

(1)優　　１００点から８０点まで

(2)良　　７０点から６０点まで

(3)可　　５９点から５０点まで　　可以上を合格とし、不可は不合格となる。

(4)不可　　４９点以下

単位認定に関しては、上記の基準によってなされているが、期末試験の結果不合格であった学生については再試験を実施し、その結果が７０点以上を合格として、評価は５０点としている。

再試験の結果が不合格であった場合、次年度に再履修することを原則とし、時間割上で再履修ができない場合、教授会及び学長承認後に認定試験を実施することにしている。

成績処理をするにあたっては、単に期末試験によってのみ評価することなく、日常的な学習態度及びレポート等の結果も十分に考慮して評価するようにしている。（授業概要の中に評価の方法も記載している。）

②課題

日常的な授業の中で学生の学習に対する関心．意欲．態度をどのように記録し評価に繋げるか、課題である。ともすると学生は学期末試験のときだけ学習して一定以上の評点であればそれで良しと安易に考える傾向がある。

本学の評価基準は５０点以上で合格＝単位取得と基準を低く設定しているにもかかわらず、これをクリアできない学生がかなりいて、再試験の対象学生となっている。本試験から追・再試験までの間が短く、十分に再復習させる時間がないことも問題である。

再試験で不合格になる学生で、時間割上再履修できない場合、卒業認定試験を受験して合格すれば単位取得できるが、不合格でしかも資格取得に必要な必修科目であった場合、資格が取得できないままに卒業となるケースもあり、このような学生をどのようにして出さないようにするか課題である。

③改善策

学生の授業内容の理解度をチェックしながら授業を進め、理解不十分な部分についてはフィードバックして再学習させることも必要である。

学生の学力の個人差が大きいことを考慮すると、低学力の学生に対しては個人補講的な指導の取り組みも望まれるところである。

(4)学外実習の実施状況

①現状

各学科とも学外実習については、学生の実習希望調査と学外施設の受入れ条件との合致点を精査して、なるべく学生の希望に沿える実習が可能になるように計画している。

特に、県外出身者が地元に帰省しての実習を希望する場合、施設との連絡を密にして円滑な実習ができるように十分配慮している。

学外実習に出す前には、事前指導を十分にし、基本的な行動．態度．言葉づかいをはじめとして実習生としての心得や基本技能を十分に指導した上で実習に向かわせている。

実習中に、関係教員が可能な限り施設を訪問して実習状況や問題の有無を把握し、また、実習日誌に日々の活動や反省を記入させ、最後に総括反省を書かせて提出させ、その結果を集約して次年度の改善に役立てている。

各学科の学外実習の実施状況

学　科	学年人数	実 習 名	期　　間	実習施設数
英語科	1年２０ 1年１５ 2年１３	ｲﾝﾀｰﾝｼｯﾌﾟ(ﾎﾃﾙ実習) 介護等体験 教育実習	７月第2週 ～８月第2週 ７月第1週 ～８月第1週 ６月第1週 ～６月第3週	ﾊｳｽﾃﾝﾎﾞｽ 他県養護学校 県内福祉施設 各出身中学校
食物科	1年１５ 2年７０ 2年１３	介護等体験 栄養士実習 教育実習	７月第1週 ～８月第1週 ７月第1週 ～７月第4週 ６月第1週 ～６月第3週	他県養護学校 県内福祉施設 出身地区 病院 学校 福祉施設 各出身中学校
保育学科	1年 108 2年６７ 2年６７	付属幼稚園実習 幼稚園実習 保育所実習	11月第1週 ～11月第4週 ５月第4週 ～６月第2週 ７月第1週 ～７月第4週	付属幼稚園 出身地区保育園 出身地区幼稚園

②課題

多くの実習が夏期休暇に入った７月第１週から始まっている。これは正規の授業に影響がない休暇中に実習する点では良としながらも、そのために前期授業回数が１５回の確保を下回ることは問題である。

実習を実効あるものにするには、事前指導が重要であり、特に施設に迷惑をかけることなく実習目的を達成するためには事前指導の充実が不可欠である。しかし、短大の時間割上その設定に十分な時間をかけることができない実態があり、課題となっている。

③改善策

学生自身に実習のもつ意義を十分に理解させ、事前指導の時間以外に学生自身が自主的に実習の準備や施設についての事前調査等積極的に取り組ませる必要がある。

(5)視聴覚教育の実施状況

①現状

各教室にはテレビとビデオが設置され、いつでも直ぐに活用できるように準備されている。しかし、科目の授業に適切な市販のビデオテープが少なく活用が少ない。

また、パソコンを活用した授業も活用が少ない。パソコン室の利用は情報技術の習得のための授業が中心であって、基礎教育科目や専門教育科目の授業にはごく一部の科目しか活用されていない。

情報機器関係施設設備 ― ＯＡ室（１室）　設備　パソコン　４５台

ＯＰ室（１室）　設備　パソコン　　８台　プリンター８台

ＬＬ教室（１室）― テープ録音可能机（４０台）

ＯＡ室を利用した授業

英語科　ＯＡ機器実習(2)　ワープロ(2)　実践コンピュータＡＢＣ(1)　ツアーマネージメント(1)

食物科　コンピュータ演習(2)

保育学科　コンピュータ演習(3)

②課題

パソコン室が１室しかないため、専門教育科目（例. 食物科の栄養学ーカロリー計算）の授業で活用しようとしても、思うように利用できない状況にある。

各教室に設置してあるテレビとビデオの活用が十分にはなされていない。学習の効率を高めるにはもっと積極的に活用する必要がある。

③改善策

視聴覚教材の活用には、まず市販の視聴覚教材の存在を精査し、購入を考えるだけではなく、各大学や研究機関及び情報センター等が所有している視聴覚教材を利用することも考える必要がある。

また、ビデオテープについては市販にない場合、自作のビデオ作製を研究的に取り組むことも必要であると考える。

(6)単位互換制度の活用

①現状

長崎県大学単位互換制度（通称ＮＩＣＥキャンパス長崎）の発足１年目が過ぎたが、本学関係の現状としては次の通りである。

1)本学学生が他大学の開講科目を受講しているもの

コーディネート科目（金曜日19時～20時30分　佐世保駅近くのアルカス佐世保にて開講）

12名（英語科２名．食物科２名．保育学科８名）

受講を続けレポート３部を提出して、単位取得した者は英語科２名のみ、他は学外実習と受講期間が重なり、公欠扱いがなされず、出席条件を充たせず、単位取得までいたらなかった。

各大学の開講科目　　各大学で時間割に従って開設され提供された科目の受講者はなし。

2)他大学生が本学の開講科目を受講している者

長崎県立大学生10名の受講申込みがあった。茶道文化５　食生活論２　栄養学１　公衆衛生学２

この中で、単位取得または受講継続中の者は７名であった。

②課題

長崎県大学単位互換制度は学生に、より広い学問をより深く学べる場を提供しようという目的で、また、他大学のキャンパスで学生とふれあい、自校にはないような科目を多くの教授陣から学べるという利点が期待されて始められたが、短期大学においては２年間という短期間のため、自校の時間割だけで過密状態であり、他大学の科目を受講できる余裕がない。

せいぜい、授業時間外に開設されるコーディネート科目くらいしか受講できない。しかも、この科目も、学外実習と重なると十分な受講ができず、受講可能期間に興味関心の高い講座を受講する程度である。

また、アルカス佐世保までの交通費に１回800 円程度かかり、15回で12000 円になり学生にとって負担になっている。

③改善策

県内大学が地理的に分散していて、折角の単位互換制度ではあるが、時間的に受講できない状況にある。可能性があるのはコーディネート科目の受講であるため、交通関係の補助・支援が望まれる。

また、学外実習と重なった場合、公欠扱いがなされて、受講継続し単位取得できて、しかもその履修科目単位が自校の卒業要件科目と読み代えられることが望まれる。

(7)職業資格取得状況と指導状況

①現状

短期大学では多くの学生が職業資格の取得を目的として入学してくる。それだけに、各学科とも学科の教育目標としている資格取得をいかに完全達成させるかが課題となっている。

平成１３年度の資格取得の状況

学　　科	資格と取得者数　（　）内は在籍数に対する％
食　物　科	栄養士68（99％）　秘書士11（14％）中学校教諭二種免許〔家庭〕4（5％）
保育学科	保育士65（97％）　幼稚園教諭二種65（97％）
英　語　科	秘書士30（49％）　中学校教諭二種免許〔英語〕13（21％）
食物栄養専攻	管理栄養士 5（45％）　平成12年度卒業生
福祉専攻	介護福祉士13(100％)

②課題

各学科とも、授業を充実し、学生に真剣な学習をさせ、全員に資格取得ができるようにするにはいかなる教育を実践すればよいか、大きな課題である。

特に、最近は入学してくる学生の基礎学力の低下が目につき、これらの学生に資格取得に必要な学力をつけさせることは簡単ではない。定期試験の結果、合格できず再試験をうけるが、再試験でも合格できずに、再履修或いは卒業認定試験まで持ち越す者がいる。それでも合格できず、資格は取得できないが、卒業要件を充たして卒業していく学生がいる。中には、卒業後科目等履修によって、再度履修して単位取得して資格を取得しようという者もいる。

③改善策

入学して、何回か授業をしてみれば、各学生の大方の学力は把握できるので、学力の低い学生に対しては、計画的継続的な個人指導が必要となる。

また、英語科ではオリエンテーション時に再度一斉学力試験と英会話能力テストを実施して、その結果で、科目によっては能力別クラス編成をして授業をしているが、他学科においても授業の中で学力を配慮した授業の工夫を考えたい。

さらに、食物科では期末試験不合格者を対象に個人指導をして、再試験を受験させて合格率を高めているが、他学科でも同様のリメディアル対応が望まれる。

(8)進級状況

①現状

入学はしたものの、諸般の事情で進級しなかった者がいる。

ア．病気のため欠席が多く、期末試験の受験資格（３分の２以上の出席）を充たさず進級できない。

イ．経済的理由で勉学を続けることが出来なくなった者

ウ．学習意欲を失い、学習の継続を希望しない者

エ．進路目標の変更により積極的に退学を希望する者（他短大・大学へ）

オ．問題行動による除籍

平成１３年度中に退学した者の実態

学　　科	病気が原因	経済的理由	意欲喪失	目標変更	問題行動
食　物　科			2	4	
保育学科		1		2	
英　語　科	1			8（留学生6）	
食物栄養専攻				1	
福祉専攻					

進級はするが問題をもって進級する者

学則には、学年と取得単位の規定はない。従って、１年次にいくつかの単位取得ができなかった場合でも、進級させて再履修によって単位取得させている。但し、単位取得できなかった科目を再履修できるように時間割を編成することに苦労している。

英語科８名中、留学生が６名いるが、いずれも日本の大学または大学院への編入学のためである。

②課題

上記ア～オの理由により、進級できずに退学や休学をする学生がいるが、イのように基礎学力や学習意欲や学習態度が短期大学の科目履修に乏しい学生がいるが、これらの学生にいかにして履修を続けさせるか、大きな課題である。

イの経済的理由で在学が困難になった学生については、奨学資金を借りることを勧めているが、社会不況の影響が大きく、単に授業料等の問題というより生活の基盤そのものの維持が困難という家庭があり、学習意欲はあるのに止むなく退学していく学生がいることは残念である。

③改善策

学習意欲や態度が問題にならないように、クラスアドバイザー制を活かして、各科目担当教員とクラス担任が連絡を密にして、出席状況や学習状況を早め早めに把握して、学生に対して必要な指導をすると共に、保護者（特に親元から離れている学生の場合）にも連絡して、親御さんからの指導もお願いしていく。

Ⅱ．教育活動

６）授業方法の工夫・研究

(1)授業概要（シラバス）の作成・提示

①現状

授業概要作成の手順

1)各学科の教育目標　重点目標の設定
2)開設科目の選定
3)科目担当教員の決定
4)非常勤講師への委嘱状の発送
5)授業概要原稿作成依頼
6)授業概要の編集

授業概要の内容については、永年検討して様式を決めており、内容・様式はあまり変更することなく、一定様式で執筆を依頼しているが、各担当教員によってその記載には差がある。

様式記載項目　Ｂ５版　１科目１頁

1)科目名　担当教員名　開講時期　履修形態（必修．選択）
2)授業目標
3)授業内容
4)テキスト・参考書
5)評価方法等

②課題

1)　シラバス作成段階での課題として、科目担当教員の決定が遅れるため、その後の作業全体が遅れ、辛うじて新年度に間に合うような状態である。
2)　１年生オリエンテーション、２年生ガイダンスの中でシラバスを配布し、その活用を説明して授業に活かすようにしているが、学生はあまり活用していないようである。担当教員も最初の授業で説明するだけで、その後活用するような場を設けていない。
3)　記載内容を工夫して、授業に活かす内容項目に変えていく検討が必要と思える。

③改善策

シラバスをどのように活用しているか、学生側、教員側ともに調査し、意見聴取して内容の充実及びより学習に役立つものに改善を図る必要がある。

編集作業を一人の担当者が行っているが、大幅なカリキュラムの変更があった年には、各学科から一名ずつ出て編成作業にあたることが正確さと効率の面から望まれる。

(2)授業方法の工夫・研究のための取り組み

①現状

従来の一定の方法で授業（講義）していれば、その中から必要な学習内容を学生が吸収して、授業の目的が達成できるような安易な考えは通用せず、絶えずよりよい授業のための改善を求めて努力することが求めら、授業方法の工夫・研究のための取り組みの必要性を感じながらも、現状では計画的組織的なＦＤがなされていない。

各教員は、如何にして効率的な授業をするか、また、理解の定着を高めるために、自分の授業を如何に改善したらよいか、模索しながら取り組みの努力をしている。

②課題

ＦＤの必要性の認識はあるものの、下記のような要因でＦＤ実施条件が充たされ難い状況にある。

1)　授業の持ち時間が多く、ＦＤのための時間がなかなかとれない。
2)　全教員が集まって計画的継続的な研修を行うような、組織及び体制ができていない。

③改善策

1)　教員が出張して他大学のＦＤの取り組みを見聞したり、実際の授業の実態を見学して、その研修結果を全教員に還流していくことが大切である。
2)　上記のような研修会を計画する担当係を設定し、組織的及び年間計画に従ったＦＤ計画を立案して、その取り組みを推進していくことが大切である。（授業方法について）
3)　専門科目については、関連科目の担当教員が連携して、むり、むだ、むらの排除のための研修会を組織的に計画し、実践していくことが大切である。

(3)教員の教育活動に対する評価（授業評価）

①現状

毎学期末に常勤教員を対象として、学生による授業評価（５段階評価）を実施している。

1)授業評価の内容

1 あなたの授業態度 ― ①授業に熱心に参加したか

2 授業の内容 ――― ②授業内容は分かりやすかったか

③授業内容は興味あるものであったか

3 授業方法 ―――④話し方は明瞭であったか

⑤熱意の感じられる授業であったか

⑥教科書．配布プリント等の使用は適切であったか

⑦板書の仕方は適切であったか

⑧遅刻や私語などに適切に対応していたか

⑨授業を興味深いものにする努力をしていたか

4 授業に対する満足度 -⑩この授業に参加して満足できたか

5 その他この授業についての感想・意見・要望を自由に書いてください。

2)授業評価の方法　最終授業時間中に学生に無記名で書かせて提出させる。

3)事後処理と活用　集められた調査用紙は事務職員によって集計され、その結果は学長から各教員ごとに報告され、説明指導がなされる。

②課題

1) 評価対象が常勤教員は全員実施の義務を課しているが、非常勤講師については、実施義務を課してはいない。非常勤講師についても実施すべきだ、という意見で、実施できるように準備しておき「支障がなければ実施してみてください。」と実施を呼びかけたが、実施されたのは僅かの講師だけであった。

2) 学生が授業評価の目的．意義をよく理解していないまま適当に記入している。

3) 最終授業の最後に短時間でしかも無記名で書かせるようにしているため、全くいい加減な記載をする者が多数いる。（オール５(4)．オール３(2)など）

4) 授業評価の結果が授業にあまり活かされていない。（学生から同一教員について同一批判を聞く）

5) 様式・内容が講義科目中心で実習・実技科目の授業には不適当な評価項目がある。

6) 学生の質と教員の指導内容・方法の問題がクリアーになる評価基準が必要である。

③改善策

1) オリエンテーション・ガイダンスの中で授業評価の目的・意義・評価の仕方（基準）について説明しておく必要がある。

2) 評価の仕方については、評価がクリアーになるように評価基準が必要である。
評価項目の見直しが必要である。

3) 講義科目と実習・実験科目では内容を変えて記載させるように、内容を変えて二種類作成して、授業内容によって様式の違う評価を準備しておく。

Ⅲ．研究活動等

1）研修制度

①現状

学内において、組織的に研修に取り組むような制度にはなっていない。各教員が自分の必要感から、研修会に出張出席して研修に努めている。

平成13年度の研修（研究）費使用しての研修出張の実態は次の通りである。

研修出張回数	0回	1回	2回	3回	4回	5回	6回	平均値
人　　数	25	7	5	1	0	0	2	0.8

②課題

1) 研修の必要性は実感し希望をしていても、授業等校務多忙のため研修会に出席できない場合があり、残念である。
2) また、出席した教職員からその成果を全員に還元する学内研修会がもたれていない。
3) 学外でなくとも、学内で教員相互の協力によって、計画的組織的な研修会をもつことも希望したいところであるが、時間的な余裕がもてない実態にある。

③改善策

1) 授業改善や学生理解や学生指導に役立つ学外の研修会には、誰か出席するように計画して、出席者が全教員に還元する報告会をもつことが有効と思われる。
2) 授業以外の校務（雑務）を整理して、研修に取り組むことのできる時間を生み出す努力が望まれる。

2）研究活動・発表

①現状

高等教育の使命は研究と教育であり、短期大学の教員にとって研究活動は使命であり、義務でもあるが、本学教員の研究活動は活発とは言えない。その実態の一端としては研究紀要に記載される論文数が例年１２～１４編あったが、平成１３年度には９論文しか提出がなかった。

②課題

1) 研究と教育のバランスが必要であるが、各教員の勤務実態をみるに、日々の授業で学生にいかにして教育したらよい授業ができるか、その準備等に時間を要し、また、校務関係の雑務に追われて研究の時間が日常は持てない状況にある。
2) 研究が各個人研究にとどまり、組織的にグループで研究するような体制がとられていない。
3) 研究テーマが個人の主観的な希望テーマに偏り、地域社会や各種団体等からの要望意見を取り上げた研究があまりない。

③改善策

1) 研究時間の問題は、授業がある期間にはなかなか時間が確保できないのは止むを得ない実態とするならば、土日や長期休業中の時間を活用して研究に取り組むしかない。

2) 研究活動についての教員相互の連絡会などを開くことも大切である。

3) 研究紀要は各教員に配布されるだけで、その発表の場が設けられていない。折角の研究であり、その成果を発表して、相互に研究し合うことも大切である。

3) 学 外 活 動

①現状

短期大学には、単に学内の学生を教育するだけではなく、その教育力を活用して地域社会に貢献することも期待されているところである。本年度本学教員について学外活動についてアンケート調査を実施した。常勤教員を対象に調査依頼したが回答があった者について集計した。

活動内容〔人（行事）〕	英語科	食物科	保育科	専攻科	合 計
A他大学等での教育活動	3 (3)	2 (2)	3 (5)		8 (10)
B他教育文化施設での活動	3 (3)	5 (12)	4 (11)	2 (13)	10(39)
C学会活動（発表・公聴）	3 (6)		3 (7)	2 (3)	8 (16)
D研究会・総会.ﾌｫｰﾗﾑ	3 (7)	2 (2)	5 (12)	1 (3)	11(24)
E調査研究等関係した機関			5 (7)	1 (2)	6 (9)
Fボランティア活動	1 (1)	1 (2)	3 (4)	1 (1)	6 (8)
G書籍演奏作品・機関役員	4 (8)	1 (4)	5 (13)	1 (8)	11(34)

この調査結果からみると、各教員によってその活動に随分の差があり、非常に積極的意欲的に活動している者と、殆ど活動していない者とがいて、時間外や休日等の活動の状況が読み取れる。

②課題

それぞれの活動事項は、限定された特定の教職員でなければできないものもあると思うが、特定な者でなくともよい、だれでも従事できるような内容のものもあると考えられ、各人の負担の極端な軽重は避けるべく、可能なものについては担当を調整することも必要と思われる。

③改善策

本学に要請される外部からの活動依頼にどの様なものが、いつどの程度あるか把握して、それを担当するに相応しい者を選出し、しかも年間バランスをとって担当するような作業をする必要がある。

但し、短期大学は教育と研究の機関であり、外部の要請に全て対応していては本来の短大の活動が圧迫されてくることも考え、外部の要請を取捨選択して適切な学内活動の維持に努めることも大切になってくる。

4) 研 究 費

①現状

教員に与えられる研究費について、どの程度何に活用されているか調査した。

(1)本学教員の研究費（単位千円）

	教 授	助教授	講 師	助 手
研究費	300	250	200	100

(2)研究費の活用状況

	0～20%	21～40%	41～60%	61～80%	81~100%
教員数	5	4	4	8	11

②課題

折角、研究費が準備されているが、これをあまり活用せずにいる教員もいる。是非活用して、研究や授業改善に役立てることが望まれる。

研究費が不足ぎみで、購入したい専門書や研究のための備品・消耗品の購入が出来ずに困ることがあり、研究費の増額が望まれている。特に、最近は研究その他執務に不可欠の情報機器の維持及び補修に費用がかかり、肝心の研究活動費が少なくなっている傾向が出ている。

③改善策

研究費を一律配分するのではなく、研究活動の実態等に応じて配分したり、グループ研究や地域に還元できるような研究には奨励的な意味を含めて、厚めの配分をするなど考えることも必要ではないだろうか。

情報機器の消耗品等については、事務局にて一括校費購入によって使用できるように改善する方途を考える必要がある。

5) 研 究 紀 要

①現状

学内の研究は各教員の自由裁量により、研究活動が推進さており、研究論文の成果を研究紀要に記載することにしている。毎年、常勤. 非常勤を問わず、提出される論文は殆ど全編掲載するように努めている。平成１２・１３年度の紀要内容は次の通りである。

		論文数	専門分野	授業関連	実習関連	地域関連
食物科	12年度	5	5			
	13年度	4	4			
保育学科	12年度	4	2	2		
	13年度	3	1	1	1	
英語科	12年度	4	3	1		
	13年度	4	3	1		
福祉茶道	12年度	2	1	1		
	13年度	1		1		

②課題

1) 研究論文の価値がどの程度のものであるか、評価を受けたことがなく、記載論文の評価が気になるところである。

2) 発行された紀要は全国の大学や研究機関約250 校に送付しているが、最近は蔵書の限界から送付を断る期間もあり、本学の図書館もその傾向にある。

③改善策

上記の1)については、一度専門家の意見批評をきいて、内容. 表記. 表現等の改善に役立てることが必要と思う。

2)については数年前に、送付希望の有無を調査して、その際に少し減数できたが、もう少し思い切った減数をしてもよいのではなかろうか。（例 短大. 九州地区大学. 本学と同じ学科を持つ短大や大学等に限定）

Ⅶ. 社会との連携

1）公開講座の開設

①現状

学校を社会に開いて、地域住民に生涯学習の場を提供することは期待されているところであり、その期待に応えるために、本学としても可能な限り、学習の場を公開講座の形で提供した。

本学の平成１３年度公開講座の実状

公開講座名称	担当学科	開講回数	会　　場	参加延べ人数
おもしろ国際学	英語科	8	本学カルチャホール	６４０
管理栄養士養成講座	食物科	１０	西地区公民館	４８０

いずれの講座も大変好評で、今後継続して開講されることが期待されている。

毎年、実施の最終回に出席者の意見要望を聴取して改善が試みられ、より好ましい講座になってきている。

なお、保育学科が以前は開催していた施設職員対象の「介護福祉士養成講座」や幼稚園教員対象の「実技指導講座」等は諸般の事情で本年度開催されなかった。

②課題

講座担当者はその計画から運営実施、そして総括まで、学務と並行しての作業で負担は大きい。実際の講座は教員が担当するとしても、事務局に計画運営に専門的に係わる職員の存在が望まれる。現在は、担当学科教員と事務局も含めての協同作業として運営にあたっているが、人員不足が感じられる。

③改善策

今後、地域の要望がますます拡大していく傾向にあり、それに応えるためには、本学は施設設備を提供して、講師陣には学外のその道の権威者にお願いするような方法も考えていくことが必要と思われる。（英語科の「おもしろ国際学」が多方面の人材を活用して実施されているように）

2）特別入学（社会人入学・科目等履修生）

①現状

生涯学習社会を迎え、学ぶ意欲のある者にはその機会を提供することが望まれている。そして、そこで学んだことが社会できちんと評価されることが期待されている。

本学でも、社会人の入学を歓迎しているところであるが、実態としては次の通りである。

平成１３年度社会人入学生及び科目等履修生

学　科	社会人入学生	目　的	科目等履修生	目　的
食　物　科	1	栄養士資格取得	1	栄養士資格取得
保育学科	5	幼稚園教諭 保育士 資格取得		
英　語　科	留学生1年20・2年21	日本の高等教育を受ける。	1	中学校教員免許取得
専　攻　科	1	介護福祉士資格取得		

＊英語科在籍の留学生（主として中国から）は殆ど高卒・大卒の後、一旦社会経験をしてからの入学生である。

社会人の存在は一般学生にとっても、その学ぶ姿勢などが大変よい刺激となっている。また、社会人の感想は、若い学生の中で学べることの幸せを実感し、好評である。

②課題

生涯学習の一貫として入学してきた社会人にとって、本学で学び取得した資格を活かして活躍する場が少なく、せっかく取得した免許を活せないことは残念である。

本学に在学中に資格取得の必修科目の単位を落として、卒業後に科目等履修によって単位を取得して、資格を得ようとする学生がいるが、本人のやる気と学力不足でどうしても単位取得ができずに、目的を達成できない科目等履修生がいることは、考えさせられる点がある。

③改善策

社会人入学に関しては、しっかりした現状認識をもってもらった上で、その入学目的を明確にして、学んだ結果が喜びにつながるようにしていきたい。

本学卒業生で資格取得のための不足科目単位の履修を目的として入学してくる学生に対しては、本人の能力及び学力から判断して、その可能性の有無を伝えてから取り組ませることも必要と思われる。

3）地域社会の諸活動と協力体制

①現状

地域に根ざした短大として、地域社会の各方面から行事に対する協力依頼が届き、短大としては学生の社会参加体験の場として、可能な限り協力してきた。

1) 平成１３年度　地域社会活動への参加

学　科	地域行事名	短大行事名	市民参加の全学行事
保育学科	・マーチング　フェスタ ・佐世保祭り（ﾏｰﾁﾝｸﾞ､ﾀﾞﾝｽ） ・キラキラフェスタ（ﾏｰﾁﾝｸﾞ） ・ﾊｳｽﾃﾝﾎﾞｽ10 周年記念（ﾏｰﾁﾝｸﾞ） ・子どもクリスマス大会	・音楽と動きの夕べ	・茶道大会
食物科	・相浦おくんち（神輿） ・佐世保祭り（神輿） ・ﾊｳｽﾃﾝﾎﾞｽ10 周年記念（料理） ・糖尿病教室栄養指導（専攻科）	・おむすび教室（相浦地区婦人会）	
英語科	・佐世保祭り（ﾊﾛｰｳｨﾝ仮装） ・小学校の国際理解教育（留学生）	・キングスクール（米軍基地小学校）との交流茶道 （H13年度は諸般の事情から中止になった。）	

2) 諸活動参加の過程

①地域諸団体からの協力依頼（学生課受付）

②学生課会議での検討（目的. 意義. 授業との関係）

③部門長会議に提案・承認

④教職員会議で具体的活動計画承認

②課題

地域行事への協力依頼が来ても、授業との関係で授業カットをしないでも済むような行事はよいとしても、授業カットが必要な行事は極力避けているものの授業カットしているものもある。

ア佐世保祭り(11/3)に全学科参加し、翌日代休となり4コマ授業カット、

イ市民参加の茶道大会（12/9）は全学行事翌日代休となり4コマ授業カット

ウ相浦おくんちに食物科の神輿が出場授業2コマ授業カット

保育学科の「音楽と動きの夕べ」は学習の成果を市民に発表する場で、そのために前日のリハーサルで4コマ授業カットは、授業の一環としてなされるもので問題はないが、授業に直接関係ない行事については、むやみに参加することなく検討することが大切である。

学生が帰省する長期休業中の行事については、学生に無理な負担がかからないように配慮しなければならない。

③改善策

短大の地域貢献という点からは、地域行事への参加協力は大いに結構という共通理解はしながらも、授業時数確保の観点から、もう一度学校行事と地域行事参加について総合的に検討してみなければならない。

平成１３年度　自己点検・評価報告

自己点検 評価項目	求人開拓・職業指導と就職状況

求人開拓

＜ 現状 ＞

企業のインターネットによる求人採用により、就職課を通さず直接学生へのアプローチが増加し、就職課への求人票が減少してきた。一年を通して企業訪問をし就職先の定着指導と併せて求人情報を収集した。また、学生が希望する企業、施設を挙げさせ効率良く訪問した。

ハローワークと連携して求人情報を提供した。

訪問企業・施設数　　１１５社

求人票受付件数　　３８６社（昨年度４６５社）

求人票依頼数　　１、２７５社

産業別求人件数

	長崎県内	県外	合計
建設	１１	５	１５
製造	７	９	１６
電気・ガス・水道	０	０	０
運輸・通信	１３	１２	２５
卸売・小売・飲食	２８	３５	６３
金融・不動産	１２	２０	３２
サービス	１０２	１３２	２３４
合計	１７３社	２１３社	３８６社

職業別求人件数

	長崎県内	県外	合計
専門・事務・管理	１０８	１５２	２６０
販売	２５	３４	５９
サービス	４０	２７	６７
合計	１７３社	２１３社	３８６社

＜改善策＞

１．保育学科学生の増加に伴い保育所・幼稚園を中心に開拓する。また、専門資格を生かせるような企業・施設・編入大学を開拓する。

職業指導

＜現状＞

職業指導については就職課専任スタッフ３名（男２女１）と 各科２年クラスアドバイザー食物科２名（女２）・保育学科２名（女２）・英語科２名（男２）合計９名でおこなった。クラスアドバイザーで個人面接をおこない、進路の希望調査、ホームルームで求人票の掲示、求人情報を紹介、進路相談などきめの細かい指導をした。就職課では１年生の１０月から２年生の６月まで各学科各週毎に時間割の中に就職講座（時間４５分）を組み入れ、履歴書の書き方、求人票の見方、資料請求の仕方、電話のかけ方、面接試験対策など実践的な指導をおこなった。また、模擬面接を放課後及び学生の空きコマを利用し実施。主に会議室を利用し本番と同じ環境を設定、ビデオカメラで撮影しながら顔の表情等をチェック、学生自身に視覚的に面接のポイントを理解させることに努めた。携帯電話（メールアドレス付き）を持っている学生に、求人情報をメールで配信するサービスをした。８割の学生が登録し、卒業後も未就職者は登録をし就職指導・追跡調査に効果的であった。就職に有利な資格をとらせるために日本ソフトウェアー協会主催 Excel 表計算処理技能認定試験・日本赤十字社救急法救急員養成講習会を実施、多くの学生が参加した。平成１３年１０月より航空業界を目指す学生のために航空業界研究会を発足。より専門的内容をゼミ形式で勉強させ、就職講座では模範面接をするなど中心的立場で学生全体を引っ張っている。全学科１年生を対象にリクルートスーツ選びチェックポイント講座を開催した。九州ジャスコ・スーツメーカーへ講師を依頼。専門的な立場からリクルートスーツの購入のチェックポイントを指導、実際にリクルートスーツを学生モデルに着せ、靴・バックなどのコーディネートをしてもらった。保育科学生には自己紹介書を各自作成させ、自分が希望する幼稚園・保育所へ就職課より送付した。その結果、直接学生へ園より連絡があり、面接・試験と就職に繋がった。

＜改善策＞

１．学生のコンピュータによる就職活動のバックアップ及び指導の徹底。

２．インターンシップの推進

現在、英語科の実施しているが、全学的に実施できるよう検討する。

３．就職後、安易に退職するケースが出てきたので、働くことの意義、不況時の就職の厳しさを理解させる。内定者に対する指導を徹底させる。

４．就職課の独自のホームページ作成し、幅広く学生に就職情報を提供する。

就職状況

＜現状＞

平成１４年３月卒業学科別就職状況

	学生数	就職希望者数	就職者数	就職率	進学者数	就職者＋進学者
食物	69	53	49	92.5%	12	61
保育	67	58	58	100 %	7	65
英語	61	30	28	93.3%	24	52
合計	**197**	**141**	**135**	**95.7%**	**43**	**178**

平成１３年３月卒業学科別就職状況

	学生数	就職希望者数	就職者数	就職率	進学者数	就職者＋進学者
食物	76	58	53	91.4%	14	67
保育	64	49	48	98 %	13	61
英語	70	44	42	95.5%	17	59
合計	**210**	**151**	**143**	**94.7%**	**44**	**187**

業種別就職状況（全学科）

	長崎県内	県外	合計	
建設	0	1	1	1%
製造	5	3	8	6%
電気ガス	0	0	0	0%
運輸・通信	1	1	2	2%
卸売・小売・飲食	9	1	10	7%
金融・保険	5	0	5	4%
サービス	81	25	106	78%
公務	2	1	3	2%
合計	**104** 77%	**31** 23%	**135**	100%

業種職種別就職状況

英語科

業種	
サービス	10%
金融・証券	1%
航空・運輸・旅行	15%
その他	28%
進学・留学	46%
合計	100%

職種	
空港保安員	25%
事務	25%
営業・販売	25%
受付・フロント	14%
その他	11%
合計	100%

保育学科

業種	
保育所	60%
幼稚園	20%
一般企業	6%
その他	4%
進学	10%
合計	100%

職種	
保育士	69%
幼稚園教諭	22%
その他	9%
合計	100%

食物科

業種	
給食受託	23%
施設	25%
一般企業	23%
その他	10%
進学	19%
合計	100%

職種	
栄養士	67%
調理師	16%
その他	17%
合計	100%

食物科は前年度比１．１％のアップの９２．５％の就職率でした。前半、企業・施設から栄養士関係の求人が出遅れ、また、栄養士に固執するあまり一般企業への受験を手控える学生が多かったが、後半、学生の動きがよくなり８３％の学生が病院・福祉施設の調理・栄養士などの専門職に就職が決定した。 保育学科は、昨年に続き就職講座できめ細かく指導。幼稚園・保育所へ年賀状送付、履歴書送付、施設訪問など積極的に動き１００％の就職率を達成した。そのうち９１％が資格を生かした幼稚園・保育所に就職を決めた。いまや幼稚園・保育所も一般企業の就職活動と同じで積極的に自分を売り込み、自己アピールをしないと採用は難しい状況である。

英語科は昨年度比２．２％ダウンの９３．３％でした。長崎県外からの学生が多く、また、学生が希望する業種も多様化している。インターネットの利用により幅広く情報収集をし、積極的に企業セミナーに参加し就職戦線を勝ち抜き、英語科の学生に人気のある空港グランドサービス・空港保安員など空港関係に就職を決めた。三学科平均では昨年度比１％のアップで９５．７％と昨年に続き高就職率を維持している。これはクラスアドバイザーのきめの細かい指導と全学を挙げての協力体制で学生を指導した結果だと思う。

＜改善策＞

１．食物科の就職活動が出遅れるので、早い段階での就職活動を終始徹底させる。

卒業生の他大学への進学状況

英語科

長崎国際大学人間科学部国際観光学科（１６名留学生：中国）、北九州大学文学部比較文化学科（１名）、沖縄国際大学総合文化学部（１名）、筑紫女学園大学（１名留学生：中国）バース大学（英国）（１名）、チチェスター大学（英国）（２名）、マウントサンアントニオ大学（米国）（１名）

合計２３名

食物科

長崎短期大学科専攻科食物栄養専攻（１２名）　合計１２名

保育学科

長崎短期大学福祉専攻科（５名）、長崎国際大学社会福祉学科（１名）、アイルオブワイト大学（英国）１名

合計７名

総合計４２名

国際交流課

平成13年度自己点検自己評価

（外国人留学生）

1　募集：

- 中国人　26人　韓国人　4人　ベルギー人　1人
- 交換留学生　1人（韓国）
- 募集に関しては、できれだけ国籍の多様化をはかりたい

2　留学生の受入れ：

- アパートの確保、掃除、備品設置等で不備、不具合が生じた。
- アルバイト探しは、困難をきわめた。特に、日本語ができない学生は、長期間探すことができなかった。
- ゴミ処理法についての周知徹底がやはり難しかった。

3　交換留学生：

- ホームステイ先が毎年同じ家庭ばかりになり、その確保が次第に難しくなってきた。

4　入管取次業務資格の取得について：

留学生の増加に伴い、入管取次業務資格者の増員を図る。現在2名から3名増員して計5名とする。

（日本人学生）

1　短期留学に関しては、9.11同時多発テロによる影響が多大で、多くのキャンセルが出た。

2　オーアウトラリアサザンクロス大学語学センター（豪、コフスハーバー）への4ヶ月の中期留学プログラムが創設された。

3　交換留学生：

- アイルオブワイトカレッジ（英）1名
- チチェスターカレッジ（英）2名
- 釜山女子大学（韓国、釜山）1名

本年度、バースカレッジ（英、4年大）は、9.11同時多発テロによる影響で親が反対し派遣できず、マウントサンアントニオカレッジ（米、カリフォルニア）は、当該学生がＴＯＥＦＬの規定の点数に到達せず、派遣で

きなかった。

4　新しい交流校について

下記の大学語学研修所が新たに交換留学生を派遣できる学校として加わった。

- サザンクロス大学語学センター（豪、コフスハーバー）
- 慶北科学大学（韓国、テグ）
- ＩＥＧイングリッシュセンター（タイ、バンコク）

5　グローバルカレッジネットワークについて：

本年度から下記の大学が長崎短期大学の連携校となり、相互に学生、教員の派遣等が行えるようになった。

- Chichester College of Arts, Science and Technology, Chichester, England
- Zoomvliet College, Roosendaal, Holland
- Oberstufenzentrum Chemie, Physk and Biologie, Berlin, Germany
- Hamilton Institute of Studies, Bangkok, Thailand
- Tokyo Keizai University, Tokyo, Japan
- Japan College of Foreign Languages, Tokyo, Japan
- Yokohama YMCA, Yokohama, Japan
- Nagasaki Junior College, Sasaebo, Japan
- Trident College, Nayoya, Japan
- Beijing - USA College of English, Beijing, China
- Beijing School of Business and Finance, Beijing, China
- Ball State University, Indiana, USA
- IQRA Complex for Education, Pakistan

6　釜山女子大茶道大会派遣と受入れ

派遣について：

派遣に関しては、9.11 同時多発テロによる影響が多大で、多くのキャンセルが出て、結局 12 名の参加者にとどまり、茶道のお点前等でも不具合が出た。

受入れについて：

受入れに関しては、12 名の学生と 3 名の教員が来佐され、韓国式茶道に加え、朝鮮式模擬結婚式を行ってもらい、大変好評を博した。

平成１３年度　　平成１４年3月１８日

図書館の運営報告と反省・今後の課題

① 運営状況

図書館の運営は,年間スケジュールに従い,進んできたつもりだが,今年度は食物科の改組に伴い,図書館の予算も決まるのが遅く,最後まで響いてきた。食物科改組による飛び入り事項も次々に入り,大変忙しい１年だった。例年は購入図書の受入冊数は約５００から６００冊であるが,食物・栄養関係の図書,約１８００冊を長崎国際大学へ移行することになり，短大には調理製菓関係図書約１０００冊を購入することに成り,例年の約３倍の図書を購入し,受入,配架してきたことになる。大学への移行作業は,夏休み中に行い,事務局の先生方にも手伝っていただき助かった。調理・製菓関係の図書は,食物科の先生方に選書はもとより,受入作業の手伝いまでしていただき,感謝している。

② 蔵書入力について

昨年度は,学生のバイトで入力作業をしてもらったが,今年度は９月中旬から福田先生にカウンターで,図書の貸出・返却業務をしていただくことになり,図書や雑誌の受入,配架,データ入力作業などに専念することが出来た。新しく購入した調理製菓関係図書１０００冊と今年度の各学科の購入図書約５００冊と寄贈図書もデータ入力を済ませたのでおおいに利用していただきたい。

③ 図書館業務のシステム変更とコンピュータ機種取替えについて

１１月頃から図書館のコンピュータの調子が悪くなり,１月に機種を取替えてもらい新しくなり、システムも書庫 V6+から Win 書庫に変更したのだが,データがスムーズに移行せず,松永先生,桜木先生,飯島先生などに大変お世話になった。

④ 蔵書点検について

蔵書点検は、図書館を閉館して行わなければならず、昨年度は後期試験後すぐに蔵書点検を行ったため、その後ゼミ発表などがあり、学生に迷惑をかけたようだったので、今年度は、卒業式後の３月１８日から３０日までに行う予定である。遅延図書の返却には、クラスアドバイザーの先生方に随分お手数を掛けているが、お陰で卒業生には、すべて返却してもらい、ほっとしている。

⑤ 利用状況について

開館時間を変更した甲斐があり、貸出総数は増加している。

⑥　今後の課題

貸出数は増加をしているが、学科によりバラツキがあり、保育科と専攻科の利用度が少ないようである。利用者数を少しでも増やすように,工夫したいと思っている。

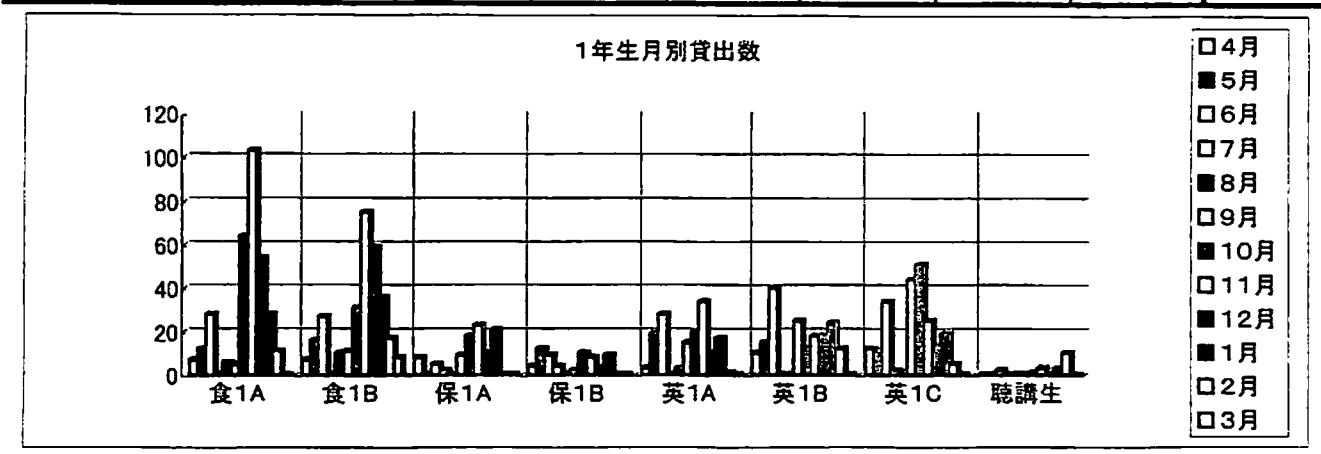
昨年度の課題であった長崎国際大の図書館の蔵書目録は置けなかったが、長崎短期大学の教職員であれば、図書の貸出は可能ということなので、利用していただきたいと思っている。学生の利用についても学生証をカウンターに見せれば、可能のようである。

今後は、図書館の端末のコンピュータを学術情報センターなどとつないで、蔵書の検索が出来るようにしていきたいと思っている。

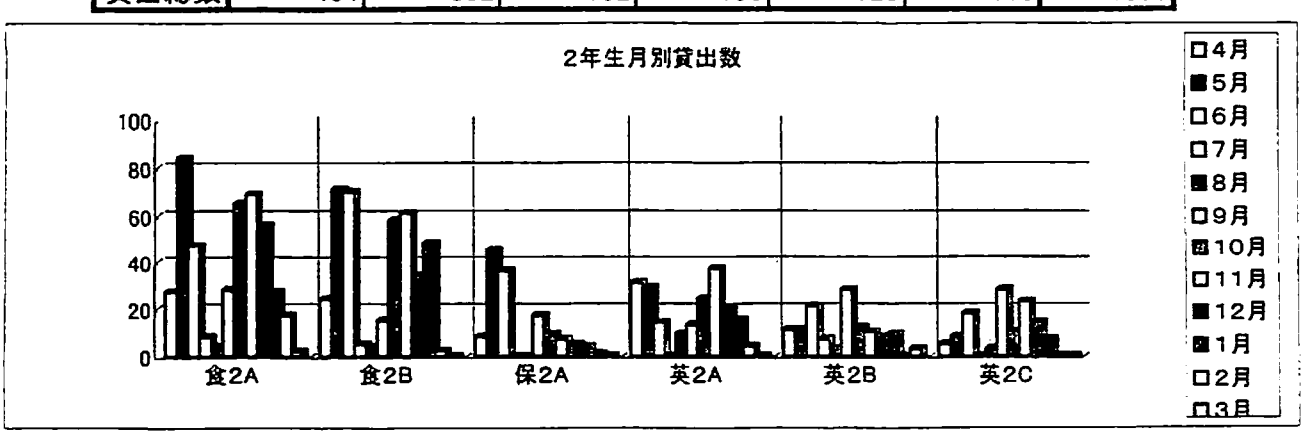
書架が手狭になり、紀要や雑誌の収納場所にも頭を抱えていたが、改組に伴う工事で、図書館用の倉庫の利用が出来るということでよろこんでいる。移動は大変だと思うが、図書館の利用度がアップするように工夫していきたいと思っている。

貸出数

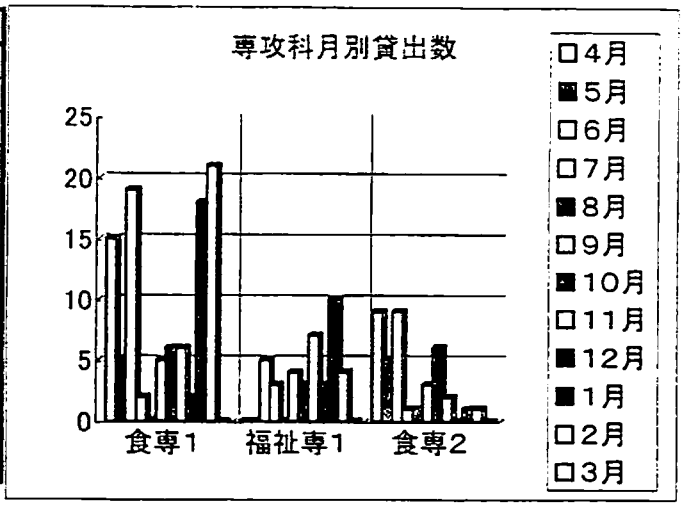
	食1A	食1B	保1A	保1B	英1A	英1B	英1C	聴講生	1年貸出
4月	7	7	8	4	3	10	12	0	51
5月	12	16	0	12	19	15	11	0	85
6月	28	27	5	9	28	40	34	2	173
7月	0	0	2	4	0	0	2	0	8
8月	6	10	0	0	3	0	1	0	20
9月	5	11	9	2	15	25	44	0	111
10月	64	31	18	10	20	12	51	1	207
11月	103	75	23	8	34	18	25	3	289
12月	54	59	10	3	10	18	13	0	167
1月	28	36	21	9	17	24	19	3	157
2月	11	17	0	0	1	12	5	10	56
3月	0	8	0	0	0	0	0	0	8
貸出総数	318	297	96	61	150	174	217	19	1332



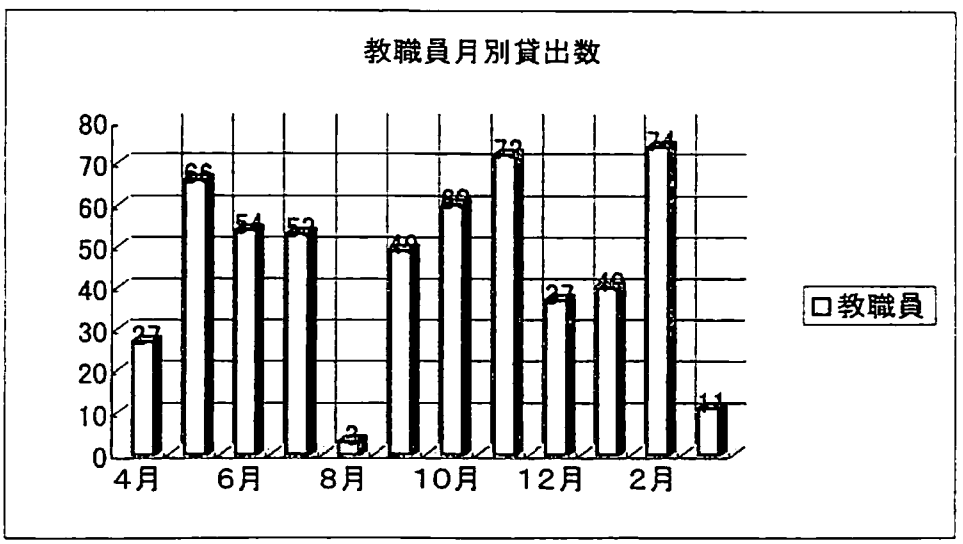
	食2A	食2B	保2A	英2A	英2B	英2C	2年貸出
4月	27	24	8	31	11	5	106
5月	84	71	45	29	11	8	248
6月	47	70	36	14	21	18	206
7月	8	5	0	0	7	0	20
8月	4	4	0	9	3	3	23
9月	28	15	17	13	28	28	129
10月	65	58	9	24	12	10	178
11月	69	61	7	37	10	23	207
12月	56	34	5	20	8	14	137
1月	27	48	4	15	9	7	110
2月	17	2	1	4	0	0	24
3月	2	0	0	0	3	0	5
貸出総数	434	392	132	196	123	116	1393



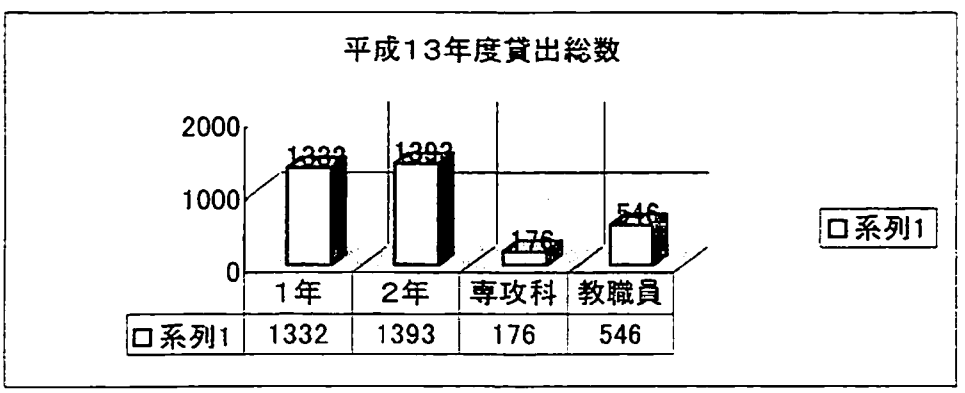
	食専1	福祉専1	食専2	専攻科計
4月	15	0	9	24
5月	5	0	5	10
6月	19	5	9	33
7月	2	3	1	6
8月	0	0	1	1
9月	5	4	3	12
10月	6	3	6	15
11月	6	7	2	15
12月	2	3	0	5
1月	18	10	1	29
2月	21	4	1	26
3月	0	0	0	0
貸出総数	99	39	38	176



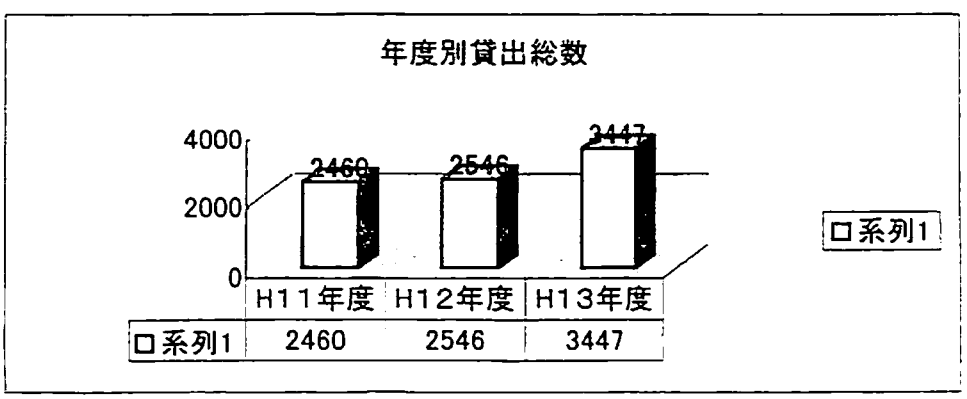
	教職員
4月	27
5月	66
6月	54
7月	53
8月	3
9月	49
10月	60
11月	72
12月	37
1月	40
2月	74
3月	11
貸出総数	546



平成13年度貸出数	
1年	1332
2年	1393
専攻科	176
教職員	546
総合計	3447



年間貸出総数	
H11年度	2460
H12年度	2546
H13年度	3447



図書館運営報告

	図書館作業内容	図書館会議	図書館便り	対外的事柄
4月	・平成12年度図書館データ年度末処理 (桜木Tへ依頼) ・平成12年度分自己点検報告書提出 ・平成13年度ファイル見出し作成 ・紀要送付先リスト作成 ・平成12年度受入紀要目次一覧作成 ・図書館利用オリエンテーション(新入生 ・平成13年度購入雑誌一覧表作成掲示 ・平成13年度図書館作業計画案作成 ・単位互換生図書館利用データ入力 ・4月の貸出統計 ・利用図書上位100作成	19)第1回図書館会議 ・平成12年度 図書館運営報告 ・平成13年度 運営計画について ・第1期図書購入計画	・平成13年度 購入雑誌一覧表 (作成・掲示) ・連休に伴う貸出 延長について (4/23-5/7)	・紀要発送作業 (278校宛) ・監査
5月	・洋書棚整理 ・第1期購入希望図書リスト一覧作成 ・追録差し替え作業 ・第1期購入希望図書データ入力作業 ・食物科関係図書リストアップ印刷 ・平成13年度図書予算検討 ・5月の貸出統計 ・利用図書上位100作成	25)第2回図書館会議 ・第1期図書購入について(選書)		・長崎県公共図書 館協議会総会欠席 (長崎大学へ委任状送付)
6月	・新着図書受入作業 ・新着図書データ入力作業 ・食物科改組後の図書選書 (食物科へ依頼) ・学術雑誌製本分発注(丸善へ) ・図書館夏休み前大掃除 ・6月の貸出統計 ・利用図書上位100作成	29)第3回図書館会議 ・長崎県大学図書館 協議会総会について (報告) ・夏期休暇中の図書館 運営について (開館時間検討) ・食物科関係図書移動 について(国際大学へ) ・食物科関係図書購入 について(製菓・調理) ・第1期購入図書受入 配架(報告)	・夏期休暇にともなう 長期貸出について (6/25-9/3) ・夏期休暇中の 開館時間 (9:00-15:00) ・遅延図書返却請求 (クラスアドバイザーへ依頼)	・第1期購入図書 発注(育文堂へ) ・長崎県大学図書館 協議会総会参加 (シーボルト大学) ・第1期購入図書発注 (丸善へ) ・平成12年度 紛失図書注文 (育文堂へ) ・製菓、調理関係 図書発注(育文堂へ)
7月	・大学へ移動する図書ピックアップ作業 (約1800冊) ・受入蔵書原簿とデータ照合作業 ・大学へ移動する図書データチェック作業 ・新着図書チェック(育文堂分約350冊) ・新着図書データ入力作業 ・発注帳簿圧縮作業 ・7月貸出統計 ・利用図書上位100作成			・監査 ・大学へ移動図書 梱包して広島丸善へ (ダンボール30箱) ・オープンキャンパス (保護者、学生見学)

	図書館作業内容	図書館会議	図書館便り	対外的事柄
8月	・調理、製菓関係図書受入作業 (育文堂分) ・追録受入作業 ・図書館システム書庫V6＋修正 (松永Tへ依頼) ・学術雑誌製本分受入作業 ・8月貸出統計、利用図書上位100作成			・大学へ移動図書 梱包して広島丸善へ (ダンボール20箱) ・製菓、調理関係 図書発注(丸善へ) ・長崎県大学図書館 協議会研修(長大)
9月	・新着図書チェック(丸善分約570冊) ・追録受入作業 ・調理、製菓関係図書受入作業 (丸善分約570冊) ・実務者研修出張報告書提出 ・新着図書データ入力作業 ・図書館大掃除 ・9月貸出統計 ・利用図書上位100作成	28)第4回図書館会議 ・食物科関係図書の 大学への移動について (報告) ・調理、製菓図書受入 進行状況(報告) ・第2期図書購入計画 ・平成14年度分 受入雑誌について (追加、休刊の検討)	・前期試験前 開館時間延長 (8:30-18:00)	・大学へ移動図書 梱包して広島丸善へ (ダンボール6箱) ・長崎県大学図書館 協議会研修(活水) ・長崎県大学図書館 協議会研修 (諫早公立図書館見学) ・第2期購入図書 発注(育文堂へ)
10月	・第2期購入希望図書リスト一覧作成 ・第2期購入希望図書データ入力作業 ・図書館大掃除 ・製菓、調理購入図書追加リスト作成 ・追録受入作業 ・10月の貸出統計 ・利用図書上位100作成	26)第5回図書館会議 ・第2期購入図書追加 発注について(選書) ・平成14年度 受入雑誌について ・調理、製菓図書受入 入力状況(報告)	・行事による休講に 伴う臨時休館日 (10/22・12/10)	・製菓、調理関係図書 追加発注(丸善へ) ・平成14年度洋雑誌 継続、更新手続き (丸善へ)
11月	・新着図書チェック(丸善分約80冊) ・調理、製菓関係図書受入作業 (丸善分約80冊) ・寄贈図書受入作業 ・図書館大掃除 ・新着図書データ入力作業 ・図書館システム書庫V6＋修正 (松永Tへ依頼) ・11月の貸出統計 ・利用図書上位100作成		・遅延図書返却請求 (クラスアドバイザーへ依頼)	・平成14年度和雑誌 継続、更新手続き (丸善へ) ・第2期購入図書 追加発注(育文堂へ)
12月	・大学へ移動図書のデータチェック ・食物関係図書大学へ移動分印刷、配布 (本部、短大事務局, 大学図書館) ・食物関係図書新規購入分印刷、配布 (本部、短大事務局, 大学図書館) ・図書館貸出システム更新 (起案、見積り, 発注一松永Tへ依頼) ・寄贈図書受入作業		・遅延図書返却請求 (クラスアドバイザーへ依頼) ・冬期休暇にともなう 長期貸出について (12/15-1/8)	・図書館業務用 コンピュータ発注 (ファイブスターへ)

	図書館作業内容	図書館会議	図書館便り	対外的事柄
12月	・新着図書チェック、受入作業 ・図書館大掃除 ・12月の貸出統計 ・利用図書上位100作成		・冬期休暇中の 開館時間 (9:00-15:00)	
1月	・新着図書チェック、受入作業 ・寄贈図書受入作業 ・図書館システムWin書庫インストール (松永Tへ依頼) ・書庫V6＋よりデータの転送作業 (松永T・桜木T・飯島Tへ依頼) ・食物科関係図書データ印刷 (厚生労働省による実地調査用) ・1月の貸出統計 ・利用図書上位100作成	25)第6回図書館会議 ・平成14年度 学生便覧について ・第3期購入図書 について(選書) ・食物科改組に伴う 図書館の対応(報告) ・コンピュータ機種 取替えについて(報告)	・後期試験前 開館時間延長 (8:30-18:00) ・蔵書点検日の お知らせ (3/18-3/30)	・図書館業務用 コンピュータ納品、設置 (ファイブスター) ・食物科改組に伴う 厚生労働省実地調査 ・第3期購入図書発注 (育文堂へ)
2月	・大学より借りていた図書108冊返却 (定期便にて:ダンボール3箱) ・図書館システムWin書庫起動 ・年度別蔵書統計 ・2月の貸出統計 ・利用図書上位100作成		・遅延図書返却請求 (クラスアドバイザーへ依頼) ・春期休暇にともなう 長期貸出について (2/4-4/11) ・卒業予定者への 貸出終了日(3/9) ・春期休暇中の開館 時間(9:00-15:00)	
3月	・新着図書チェック、受入作業 ・寄贈図書受入作業 ・3月の貸出統計 ・利用図書上位100作成		・遅延図書返却請求 (クラスアドバイザーへ依頼)	

図書館作業(通年)

- 郵便物・雑誌・紀要・追録・新聞・寄贈図書・図書目録など随時受入作業
- 新聞のスクラップ(本学園関係分・図書館関係分)
- 随時貸出返却作業
- 追録差替え作業
- 随時返却図書配架
- 文献複写依頼に対応
- 新着図書・学術雑誌製本分受入作業 (図書チェック・印押し・ナンバリング・分類・ラベル打ち・ラベル貼り・図書原簿記入・データ入力・図書配架)

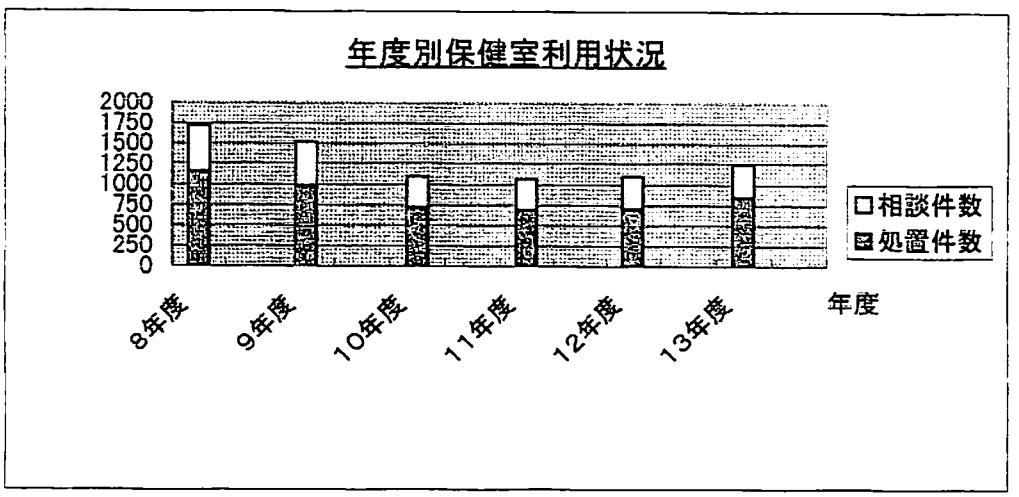
その他 図書館使用内容

- 教職員の朝会, 英語科会議(毎週火曜日、金曜日)
- 行事前教職員打合せ(4/7・7/19・7/20・10/20・3/16)
- 茶道関係会議(4/3・4/5・4/12・10/15・11/9・11/13・11/14・11/20・11/26)
- 朋友会関係会議(2/13・3/1・3/5・3/18)
- 監査(4/24・7/10・1/16)
- 閉館して蔵書点検(3/18-3/30)
- 図書館清掃(食物科1－B)

「平成13年度保健室利用状況」

1. 年度別にみる保健室利用状況

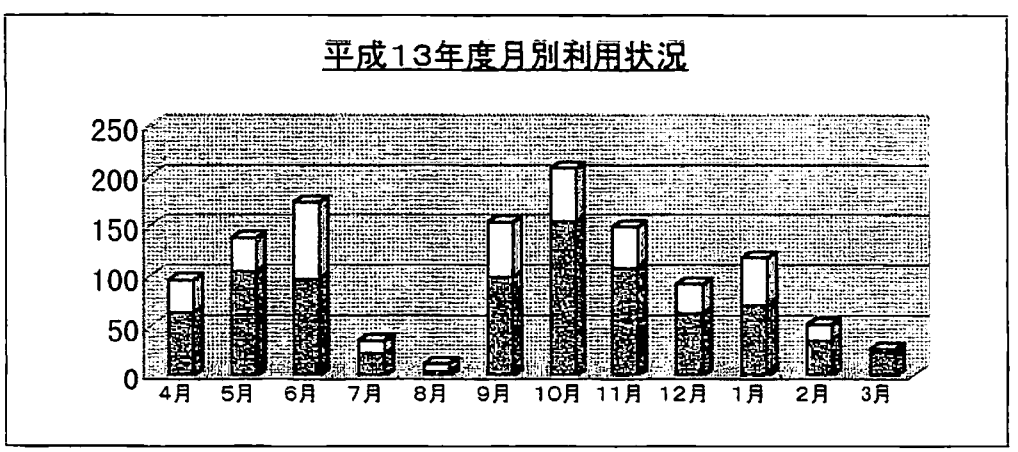
		8年度		9年度		10年度		11年度		12年度		13年度	
1	処置件数	1159	67%	980	64%	717	65%	691	65%	705	[illegible]	849	68%
2	相談件数	559	33%	542	36%	380	35%	380	35%	400	[illegible]	407	32%
	延べ件数	1718	100%	1522	100%	1097	100%	1071	100%	1105	[illegible]	1256	100%



年度別にみる保健室利用状況では平成8年度、9年度は高い利用件数であったが、
その後3年間はほぼ横ばいの利用状況である。
平成13年度の総件数は、1256件で昨年と比べると、やや増加した。平成12年度より
今まで最も多かった風邪などの感染症状を抜いて、健康不安などの相談項目が多くなった。

2. 平成13年度月別利用状況

項目＼月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	比率	合計
処置件数	64	105	97	23	4	99	155	108	63	71	36	24	68%	849
相談件数	32	33	77	13	8	55	53	41	29	47	16	3	32%	407
合計	96	138	174	36	12	154	208	149	92	118	52	27	100%	1256



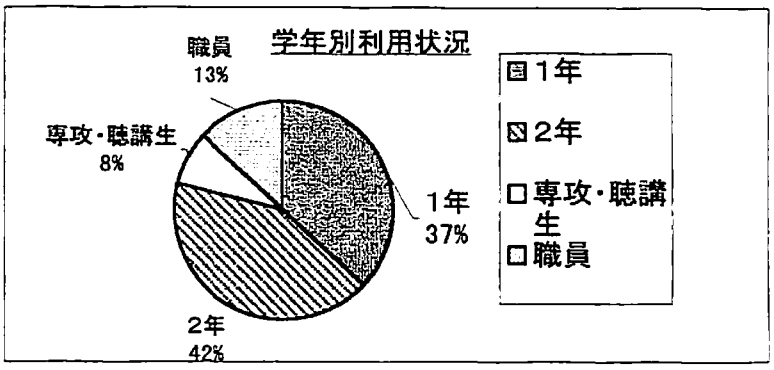
月別利用状況では、今年度はインフルエンザなどの大流行などはなかったが、例年通り
4，5，6月と行事が多い9，10，11月に集中した。

3. 平成13年度項目別利用状況

項目別利用状況		
1. 健康不安などの相談	209件	17%
2. 風邪などの感染	189件	15%
3. 疼痛(頭痛・腰痛・歯痛)	130件	10%
4. 生理痛	112件	9%
5. 自律神経症状	110件	9%
6. 外傷・擦過傷	86件	7%
7. 皮膚科症状	76件	6%
8. 対人関係の悩み	76件	6%

4. 学年別による利用状況

1年	460	37%
2年	532	42%
専攻・聴講生	105	8%
職員	159	13%



平成13年度　各月の保健室利用状況　〔延べ件数〕

項目＼月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計	比率
風邪などの感染症状	28	17	14	0	0	18	33	29	26	17	6	1	189	15%
胃腸症状・不眠など自律神経症状	5	15	17	5	0	12	17	9	10	10	5	5	110	9%
頭痛・腰痛・歯痛などの疼痛	6	15	13	7	1	17	30	18	2	11	5	5	130	10%
生理痛	10	16	8	4	0	20	22	13	10	7	1	1	112	9%
貧血症状	0	2	1	0	0	0	2	1	1	1	0	0	8	1%
過呼吸	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1	0%
喘息	0	0	0	0	0	0	0	4	0	0	0	0	4	0%
外傷・擦過傷	3	10	13	7	1	5	16	9	7	8	5	2	86	7%
突き指・捻挫	5	5	7	0	0	3	3	4	0	2	0	0	29	2%
火傷	1	1	6	0	1	4	11	1	1	1	0	1	28	2%
眼・耳鼻科症状	2	15	3	0	1	14	11	7	1	6	6	5	71	6%
皮膚科症状	4	8	15	0	0	6	10	8	5	8	8	4	76	6%
その他（けいれんなど）	0	1	0	0	0		0	4	0	0	0	0	5	0%
処置件数	64	105	97	23	4	99	155	108	63	71	36	24	849	68%
健康不安などの相談	16	29	27	5	2	21	28	31	20	23	6	1	209	17%
対人関係の悩み	8	3	8	3	0	5	18	8	7	13	3	0	76	6%
月経不順	0	0	2	1	1	1	0	0	1	3	0	0	9	1%
ダイエット	0	1	0	3	3	19	0	0	1	3	0	2	32	3%
進路	1	0	4	0	2	4	4	1	0	2	3	0	21	2%
便秘	0	0	4	1	0	5	2	0	0	1	0	0	13	1%
アトピー	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	0	0	2	0%
面接その他	7	0	32	0	0		1	0	0	1	4	0	45	4%
相談件数	32	33	77	13	8	55	53	41	29	47	16	3	407	32%
合計	96	138	174	36	12	154	208	149	92	118	52	27	1256	100%
1年	18	49	87	2	4	66	93	72	32	25	9	3	460	37%
2年	54	64	67	7	7	60	97	51	36	68	15	6	532	42%
専攻・聴講生・他	7	15	7	13	1	17	1	11	14	12	4	3	105	8%
職員	17	10	13	14	0	11	17	15	10	13	24	15	159	13%
ベッド使用	6	20	12	6	0	7	20	21	9	4	2	0	107	
担架使用	0	1	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	2	
病院同行	0	1	1	0	1	0	0	0	3	1	1	1	9	
学研災手続き	0	3	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	4	
STDなど（人）	3	3	1	1	1	7	3	3	2	1	2	0	27	
入院者	0	1	0	0	0	0	0	1	0	1	0	0	3	

2001年度(平成13年度)学生健康診断(内科検診)結果

全学生513名を対象に、午後より2日間校医による内科検診が行われた。(第1回目)
受診率は100%で、その結果所見のある学生が27名であった。

1. 内科検診受診状況と検診結果　＊心臓所見が14名、その他の所見が13名であった。

学科	学年	対象者数(人)	受診者数(人)	受診率(%)	内科検診結果	
					心臓所見	その他の所見
食物科	1年A	42	42	100	0	1
	1年B	44	44	100	0	4
	2年A	35	35	100	0	0
	2年B	35	35	100	1	1
保育学科	1年	109	109	100	4	3
	2年	66	66	100	6	3
英語科	1年A	27	27	100	0	0
	1年B	27	27	100	0	1
	1年C	29	29	100	0	0
	2年A	22	22	100	0	0
	2年B	21	21	100	1	0
	2年C	21	21	100	1	0
食物専攻科	1年	12	12	100	1	0
	2年	10	10	100	0	0
福祉専攻科		13	13	100	0	0
合　計		513	513	100	14	13

2. 内科検診結果内訳　＊心臓所見では心雑音、その他では貧血の疑いが多い

心臓所見 14名	心疾患	1
	心雑音	10
	Ⅱ音分裂	1
	右胸心	1
	右第2弓突出の疑い	1
その他の所見 13名	貧血	1
	貧血の疑い	7
	側わん症	1
	腰部側わん傾向	1
	甲状腺疾患の疑い	2
	頚部リンパ節数個	1

3. 未受診者内訳

	食物1年B	保育学科2
心疾患		
心雑音		2
Ⅱ音分裂		
右胸心		
右第2弓突出の疑い		
貧血		
貧血の疑い	2	2
側わん症		
腰部側わん傾向		1
甲状腺疾患の疑い		
頚部リンパ節数個		
計	2	5

4. 内科検診後の受診状況　＊27名の内、異常なしが12名.経過観察が5名であった。未受診者の7名も含め全員の保健指導を行った。

学科	学年	内科検診結果		内科検診受診結果				
		心臓所見	その他の所見	治療継続	紹介予定	経過観察	異常なし	未受診
食物科	1年A	0	1	1				0
	1年B	0	4			1	1	2
	2年A	0	0					0
	2年B	1	1				2	0
保育学科	1年	4	3		1	3	3	0
	2年	6	3				4	5
英語科	1年A	0	0					0
	1年B	0	1			1		0
	1年C	0	0					0
	2年A	0	0					0
	2年B	1	0				1	0
	2年C	1	0				1	0
食物専攻科	1年	1	0	1				0
	2年	0	0					0
福祉専攻科		0	0					0
合　計		14	13	2	1	5	12	7

1. 平成13年度胸部レントゲン撮影結果

1. 胸部レントゲン受診状況と精密検査結果

514名が受診し、受診率は100%であった。
結果1名が、両不安定非空洞型肺結核の疑いで病院紹介。1週間の検査入院と9日間の自宅療養をしたが、結核菌の検出はなく復学しながら、経過観察となった。
二次の直接撮影者が8名であったが、全員が異常なしであった。

学科別胸部レントゲン受診状況と検査結果

	間接撮影	直接撮影	間接直接	直接撮影検査結果		
学科	対象者数	対象者数	受診率	異常なし	経過観察	要治療
食物科1年	86	3	100%	3		
保育学科1年	109	2	100%	2		
英語科1年	83	2	100%	2		
食物科2年	70	0	100%	0	1	
保育学科2年	66	0	100%	0		
英語科2年	64	1	100%	1		
食物専攻科	23	0	100%	0		
福祉専攻科	13	0	100%	0		
合計	514	8	100%	8	1	0

（直接病院紹介）

胸部レントゲン精密検査結果の内訳

指導区分	検査結果	人数
経過観察		1
異常なし	直接撮影者	8
	右第2弓突出疑い	1
	右胸心	1
計		11

＊精密検査結果、異常なし10名
経過観察1名であった。

2. 側わん症所見結果

		内訳		
科	人数	要治療	経過観察	治療中
食物科1年	3	2	0	1

＊食物科1年のみ3名で体操や水泳などの保健指導が行われた。

3. 側わん傾向所見結果～全く正常な生活を行って差し支えなく、特に定期的な医師の観察指導を必要としないもの

学科	人数
食物科1年	2
保育学科1年	2
合計	4

＊1年生のみであった。日常生活の保健指導を行った。

身体測定結果（平成13年度）

1．クラス別による身体測定平均値

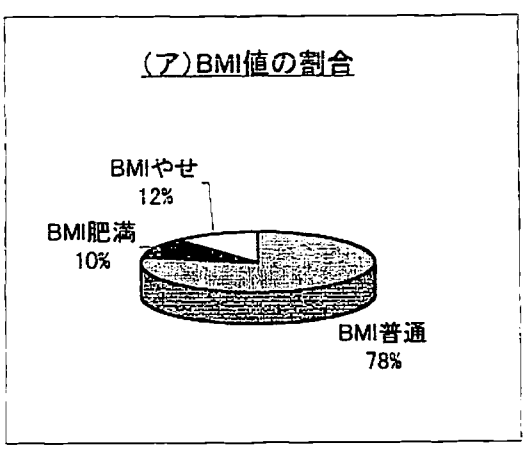
クラス	身長	体重	BMI値	体脂肪率	（ア） BMI普通	BMI肥満	BMIやせ	（イ） 肥満	やせ及びやせ気味	人数
	cm	kg		%	人数	人数	人数	人数	人数	クラス全人数
食物科1A	157.5	53.7	21.7	26.7	34	7	2	7(1)	12(0)	43
食物科1B	156.2	55.2	22.6	27.8	33	8	3	8(2)	9(1)	44
保育学科1	156.8	51.6	20.9	28.2	84	6	19	15(1)	43(0)	109
英語科1A	155.3	51.4	21.3	27.2	21	3	3	3(0)	10(0)	27
英語科1B	157.9	53.0	21.3	27.0	20	3	4	3(1)	10(0)	27
英語科1C	159.8	53.5	20.9	26.1	26	0	3	0(0)	9(0)	29
食物科2A	159.0	54.4	21.5	28.7	30	3	2	3(1)	8(0)	35
食物科2B	157.7	54.6	21.9	29.1	26	4	5	4(3)	11(1)	35
保育学科2	158.4	54.6	21.8	27.7	50	9	7	11(1)	25(0)	66
英語科2A	157.3	53.2	21.5	29.6	17	2	3	4(0)	6(1)	22
英語科2B	159.3	55.4	21.8	29.5	19	2	0	5(0)	4(0)	21
英語科2C	159.7	54.0	21.2	30.0	15	3	3	3(0)	6(0)	21
食物専攻科1	159.9	53.1	20.8	26.7	8	1	3	2(0)	5(0)	12
食物専攻科2	157.6	50.9	20.5	25.0	9	0	1	0(0)	5(0)	10
福祉専攻科	157.2	54.1	21.8	30.3	8	2	3	3(0)	3(0)	13
平均	158.0	53.5	21.4	28.0						
合計（人）					400	53	61	71(10)	166(3)	514
全体の割合	%				78%	10%	12%	14(2)	32(0.6)	100%

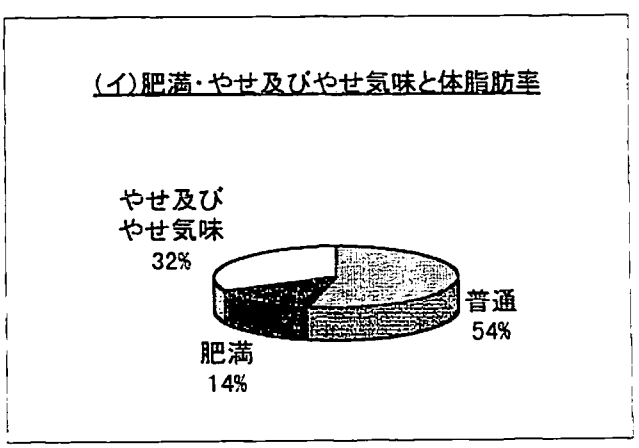
・BMI値普通：BMI値18．5以上～25未満
・BMI値肥満：BMI値25以上
・BMI値やせ（低体重）：BMI値18．5未満
（ア）

（イ）
・肥満：BMI値25以上もしくは体脂肪率35％以上
（　）はBMI値30以上及び体脂肪率35％以上
・やせ・及びやせ気味：BMI値20未満及び体脂肪率17％以下
（　）はBMI値18．5未満及び体脂肪率17％以下

上記の表より
BMI値30以上（肥満2度）及び体脂肪率35以上（肥満）は全体で10名、逆にBMI値18．5未満及び体脂肪率17％以下は3名であった。

2．全体的にみるBMI値と体脂肪率の割合



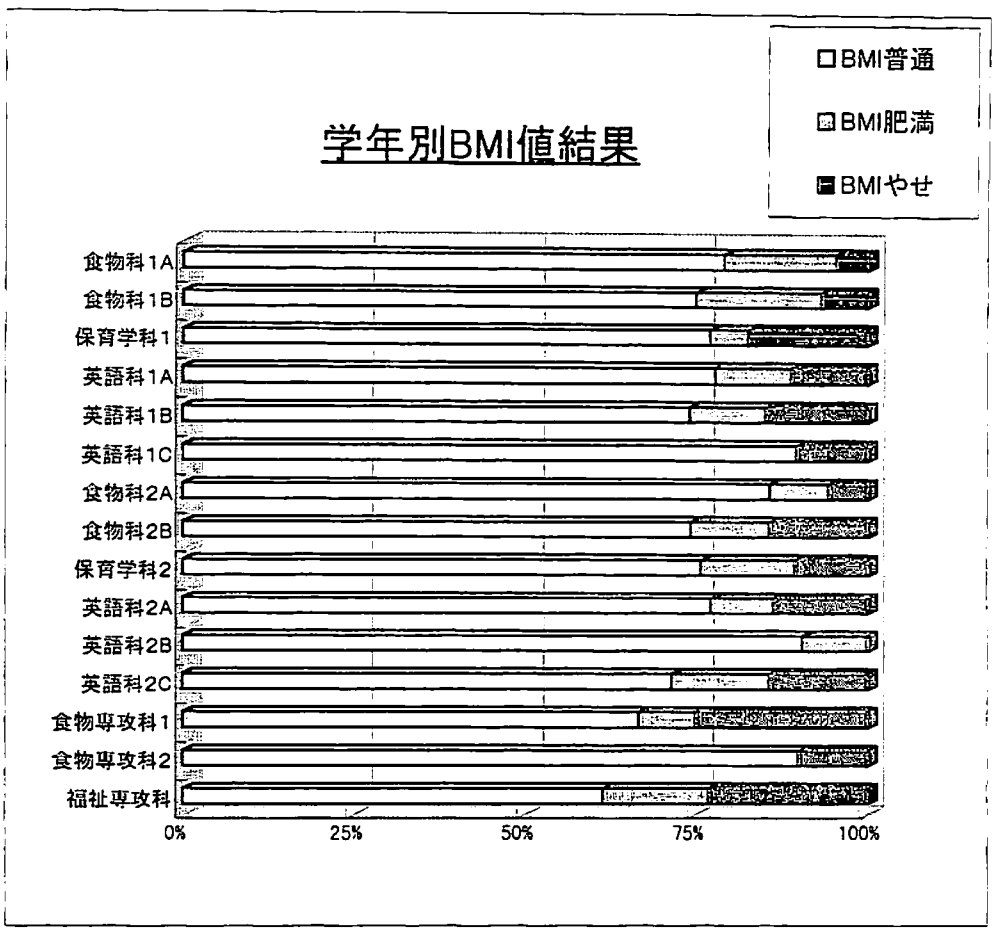


BMI値の分類は上記の通りとした。
BMI値普通は全体では78％、肥満は10％やせは12％であった。

BMI値と体脂肪率の両方を併用した割合は普通が54％で左記より24％少なくなった。
又肥満は14％、やせ及びやせ気味は32％となり、体脂肪率の多い学生、体格でやせ気味の学生が目立つ。

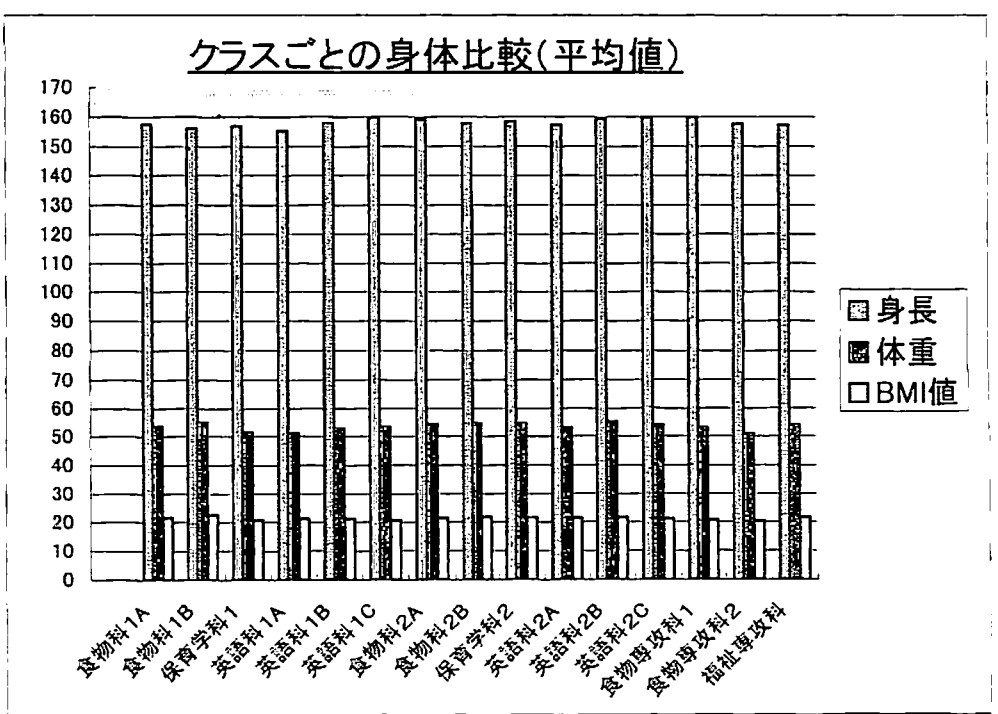
3. 学年別にみるBMI値結果

学年別にみるとBMI値の普通は、英語科1年C、食物科2年A、英語科2年B、食物専攻科2年に多かった。BMI値肥満は食物科1年Bが多く逆に、やせは食物専攻科1年が多かった。



4. 平均値からみる身体測定結果

身長は食物専攻科1年、英語科1年Cが最も高く、逆に低いのは英語科1年Aクラスであり、その差は4．6cmであった。BMI値では食物科1年Bが高く、食物専攻科2年は低い。その差は2．1であった。体脂肪率平均値が最も多いのは福祉専攻科で、逆に少ないのは、英語科1年Cクラスで差は4，2%であった。全学生のBMI平均値は普通であるが、体脂肪率は境界域である。



保健室年間業務　（平成13年度）

月／対象	学　生	教職員	その他
4月	保健講話（全学生対象）アルコール・性教育他 定期健康測定（全学生対象） 健康調査・身長・体重・胸囲 視力・体脂肪率 胸部レントゲン撮影（間接・全学生） 面接　・健康調査票より必要な学生 ・診断書提出者 ・クラス担任よりの依頼者 保健だより（身体測定の結果） 発行（胸部レントゲンでわかること） （ホスピタルマップ）		健康管理カード集計 （～6月） 防虫駆除 （ごきぶり）
5月	胸部レントゲン再検査（直接） 面接　（保健指導・病院紹介等） 内科診察（全学生対象）17，24日 保健だより発行 （体脂肪と体重） （月経困難症の対処法）	健康診断 （一般・THP）21，29日 業者委託	学生教育災害保険 申込み
6月	歯科検診（希望者62名） 内科診察後の保健指導・病院紹介など	健康診断結果説明 14日　業者委託	学生X線撮影結果 報告
7月			オープンキャンパス 送迎用薬品準備
8月			大学保健管理研究協議会 参加（九州工業大学） 母子保健指導者講習会参加
9月	休暇後の面接（病院紹介者など） 保健だより発行（夏で疲れたこころと身体に元気を 取り戻す法は？ 広報（結核の常識）		
10月	臓器提供　意思表示カード設置 白蝶祭展示（ダイエット・エイズ・骨髄バンク） エイズアンケート調査		釜山訪問医薬品準備
11月			
12月	「世界エイズデー」 レッドリボン作成		
1月	はたちの献血（46名参加）		
2月	広報（かぜ知らずさんの生活術）		
3月			県下大学保健管理協議会参加
通年	応急処置・健康相談・保健指導・医療機関への紹介 健康測定証明書発行 欠課証明発行（保健室利用） 学生教育研究災害障害保険手続き 保健室利用状況調査（毎月）		

平成１３年度 自己点検・評価報告書

自己点検評価項目	事務組織 大学における事務組織

現　状

本部事務とは学校法人のことで大学事務局とは次のように機能分類している。

学校法人　事務局

総務に関する事務	庶務　人事　秘書　文書
会計に関する事務	経理　会計
管財に関する事務	財産管理

大学事務局

総務に関する事務	文書管理　秘書
大学全般に係わる運営事務	

短期大学の事務と高等学校，幼稚園，調理師専修学校，歯科衛生士学院を含んだ業務が，法人事務局の分野となる。

短期大学事務局における事務組織は，平成１３年度組織及び分掌事務から見ると下記の体系からなる。

総　括・・・短期大学全体の総括
庶務係・・・庶務・人事・服務・給与・福利厚生
会計係・・・収入・支出会計
管財係・・・施設設備の整備・公用車・環境美化
学生係・・・庶務・入学試験・学生部長補助事務
教務係・・・庶務
図書係・・・図書
就職係・・・就職
保健係・・・保健

改善点

全面的に事務局の係わる業務は多種多様である。大学事務の業務量は年間を通して均一化しているわけでなく，年に数回，異常に煩雑になる時期がある。学年はじめ白蝶祭，入学試験等々である。従って，どの時点の業務量にあわせた人員配置をするかが問題である。これとは別に，施設の維持管理についても，事務局には欠くことのできない業務の一つでもある。

また，学生サービスの面で受付業務の時間帯，対応などについては事務局の都合にによる制約は，出来るだけ少なくして学生から頼られるサービスを考慮して運営にあたらなければならない。

又，法人事務局と意思の疎通を図り，連携を密にして効率的な事務処理を行う必要がある。

平成１３年度 自己点検・自己評価報告書

自己点検 評価項目	教員の構成 採用，昇任の手続きと基準

現 状

採用については，その都度人事委員会において，新年度前に教員選考規程に基づき人事会議を行い基本採用計画案を作成，それを理事会において審議，承認後具体的にリクルート，面接試験の上，採用を決定する。
昇任手続きと基準については，基本的には，教員選考規程にのっとり法人事務局おいて昇任案を作成し，これを学長が承認し，決定する。

改 善 策

教員選考規程が昭和４７年４月１日に作成したもので，規程の見直しが必要である。

経験年数だけでなく，教員の資質も重要になる。これをどう評価し，昇任させていくか，公平で慎重な審議を要する。

平成１３年度自己点検・自己評価報告書

自己点検 評価項目	教員の構成 教員人事の長期計画

現　状

1　短期大学設置基準（厚生省基準）
2　学級数
3　科目内容
4　財政状況

以上の要因を勘案して，体系的な長期計画案を法人事務局において作成し，理事会において，これを承認する。

改善策

教育の質の向上においては，施設設備の充実だけでなく，教員の質向上には教員数の増が考えられるが，人件費の高騰は財政状態に大きく係わるものであり学生数減少の時だけに，検討の上綿密な計画を立てる必要がある。

平成１３年度 自己点検・評価報告書

自己点検評価項目	研究活動 研究費の額と配分状況

現 状

本学の一人当たりの年間研究費及び使用状況は次のとおりである。

	１人当研究費	該当数	研究費総額	使用者数	使用総額
教授	３００，０００	１６	４，５００，０００	９	１，６１１，６７５
助教授	２５０，０００	７	１，７５０，０００	６	１，４８３，７０３
講師	２００，０００	１５	３，０００，０００	１２	１，９９０，９９０
助手	１００，０００	３	３００，０００	１	６８，６４４

よって　使用者の割合は６８％である。
使用額の割合は５４％である。
使途の内容については，学会費が１２％，研究費等が７９％であり，その他が９％である。

改 善 策

研究費の有効な配分としては，年度当初に，研究目的をはっきりさせ，そのための所要額を申請してもらいそれをもとにして予算配分を行う方が有効に利用できる。
短大として教育研究活動をどの程度の割合で考えるかが，課題である。

平成１３年度 自己点検・評価報告書

自己点検 評価項目	研究活動 研究誌の発行状況と編集方針

現 状

紀要の執筆者

第1号	56年12月	安部直樹 前田治志 福田貴美子 光義 貢
第2号	57年12月	中野伸彦 安部恵美子 田坂弘子
第3号	58年12月	中野伸彦 松永妙子 田坂弘子
第4号	59年12月	大宮直樹 高橋晃清 中島三雄 村尾秀雄 八木和人
第5号	5年 3月	安部芳樹 安部恵美子 西津健二郎 八木和人 古賀陽子 西岡和子 中坪史典 中野明人
第6号	6年 3月	安部芳樹 前田 稔 嶋内麻佐子 川久保伸 田中 誠 白川佳子 ローレンシャバイロ
第7号	7年 3月	前田 稔 古賀陽子 川久保伸一 田中 誠 白川佳子 中坪史典 好川 正 橋本俊二郎 斎藤照夫 野口七郎 石田敬子
第8号	8年 3月	宮口尹男 前田 稔 中野明人 田中 誠 牟田美信 山中理江 西村栄恵
第9号	9年 3月	安部直樹 安部恵美子 前田稔 永石 直 山崎久子 嶋内麻佐子 田中 誠 中野明人 牟田美信 北川誠一郎 白川佳子 西村栄恵 尾場 均
第10号	10年 3月	安部直樹 原 耕平 谷脇民子 永石 直 山崎久子 嶋内麻佐 田中 誠 中野明人 牟田美信 北川誠一郎 白川佳子 尾場 均
第11号	11年 3月	安部直樹 安部恵美子 原 耕平 宮口尹男 高橋信幸 山崎久子 嶋内麻佐 田中 誠 中野明人 牟田美信 北川誠一郎 山中理江
第12号	12年 3月	原 耕平 宮口尹男 高橋信幸 安部恵美子 坂本雅俊 田中 誠 中野明人 陣内 敦 北川誠一郎 山中理江 原 憲子 西村栄恵 有吉恵子 西森珠貴 山口美穂 陳 健
第13号	13年 3月	原 耕平 宮口尹男 谷脇民子 安部恵美子 陣内 淳 好川 正 中野明人 北川誠一郎 牟田美信 山中理江 原 憲子 西村栄恵 豊村洋子 山口美穂 筒井裕子 陳 健
第14号	14年 3月	安部直樹 宮口尹男 西村栄恵 安部恵美子 山口美穂 陣内 敦 山中理江 牟田美信

現状としては，紀要編集委員会において，教員の使命・紀要発行の意義を明確にし，発行後は反省，活動報告を行っている。

年１回発行し，昭和６０年から平成４年迄の間，未発行であるが，その後毎年発行ている。

改善策

教員の活動を活発にし，促進するためには，教員自らが，自己点検・評価にもとずき教育研究活動を行う必要があり，大学としても，その教育研究活動の研究成果を定期に且つ平等に公表する機会を与え，それを評価する必要がある。

施設の状況

敷地面積

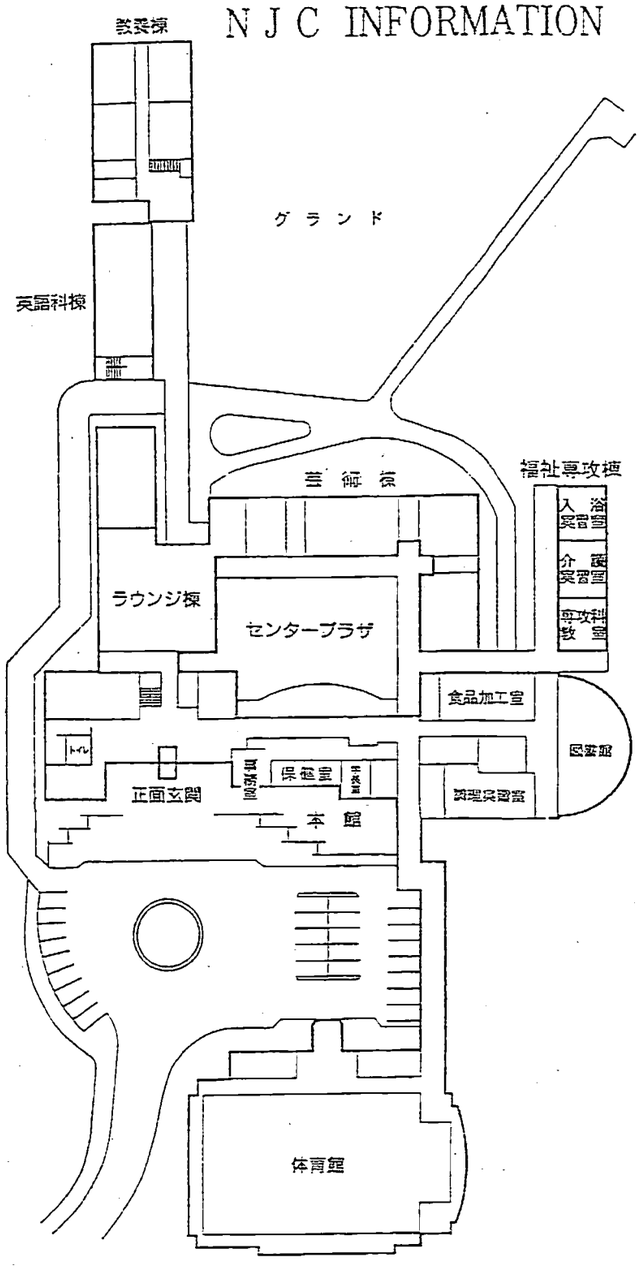
校舎・体育施設	２２，２４３㎡
屋外運動場敷地	４，４１０㎡
その他	１８，１１７㎡
合　　計	４４，７７０㎡

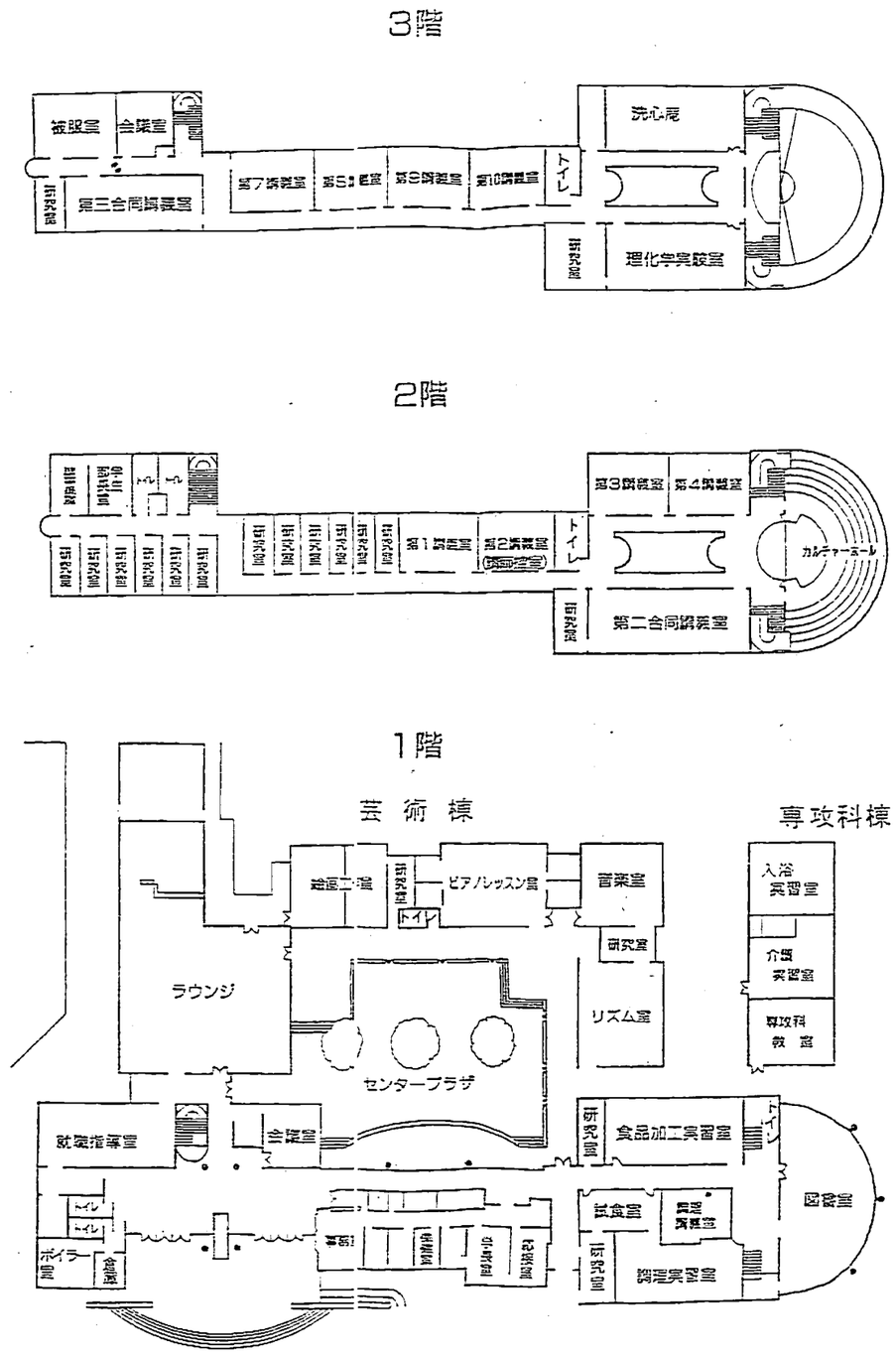
建物面積

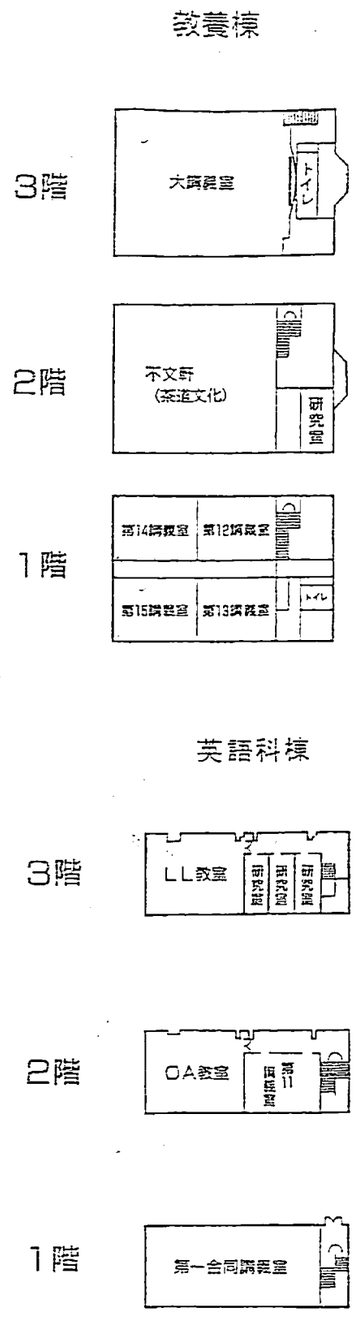
講義室	２，８３５㎡
実験室・実習室	１，２２４㎡
研究室	６２６㎡
図書室	１９０㎡
管理関係	３，１０３㎡
体育施設	１，６４１㎡
合　　計	９，６１９㎡

配　置　図　　平　面　図

N J C INFORMATION







長崎短期大学

自己点検・評価委員会規定

第１条　長崎短期大学は，短期大学設置基準第２条の規定に基づき，理事会の下に「自己点検・評価委員会」を設置する。

第２条　「自己点検・評価委員会」は，長崎短期大学の教育水準の向上を図り，その設置目的及び社会的使命を達成するために，自己点検・評価の作業を総轄する。

第３条　「自己点検・評価委員会」は，次のことを行う。

１）自己点検・評価の項目の設定
２）自己点検・評価の実施計画の策定
３）自己点検・評価の分析
４）自己点検・評価の結果に基づく改善措置の提言
５）自己点検・評価の理事会への報告

第４条　「自己点検・評価委員会」は，長崎短期大学自己点検・評価委員会名簿によって構成する。

第５条　「自己点検・評価委員会」は，設定した項目の点検・評価の作業を実施するため，短期大学・法人部門との合同専門部会を設ける。
短期大学の専門部会の構成は，学長がこれを定める。

第６条　専門部会は次のことを行う。
１）自己点検・評価についての教職員への周知
２）自己点検・評価の作業の実施
３）自己点検・評価の結果の「自己点検・評価委員会」への報告

第７条　理事会は，「自己点検・評価委員会」の報告に基づきその状況を公表するものとする。

第７条　委員会構成員の任期は２年とする。ただし，再任を妨げない。